

令和7年度WWL・SGHN連絡協議会 プログラムおよび諸注意事項

【開催日時】令和7年7月23日(水)10:00~16:30

※16:30~17:00 名刺交換会兼情報交換会(参加自由)

【開催場所】文部科学省 東館3階 講堂

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3丁目2-2

[交通案内はこちら](#)(文部科学省ウェブサイト)

※ご入場は「霞が関合同庁舎第7号館 西館と東館の間に位置する2階共用ロビー内の講堂専用出入口」からお願いいたします。正面玄関からはご入場いただけません。

当日、9:30より現地にて係員がご案内いたしますので、案内表示および係員の指示に従ってご入場ください。

【プログラム】

●午前の部(10:00~12:30)

時間	内容	発表者・発言者
10:00-10:10 (10分)	開会 文部科学省 挨拶	橋田 裕 文部科学省 初等中等教育局 高等学校担当 参事官
10:10-10:15 (5分)	WWLコンソーシアム 事務局 挨拶	柴田 巖 WWLコンソーシアム事務局長 (株式会社Aoba-BBT 代表取締役社長)
10:15-11:30 (75分)	WWL 取組等発表 (各15分×3機関)	①筑波大学附属坂戸高等学校 ②宮崎大宮高等学校 ③広島大学
11:30-12:30 (60分)	専門家セミナー	藤井 輝夫 様 東京大学 総長

(休憩 12:30~13:30)

●午後の部(13:30~16:30)

時間	内容	発表者・発言者
13:30-14:20 (50分)	第1部 グループ別協議① 【テーマ】 グローバル人材育成	
14:20-14:30 (10分)	休憩	

14:30-15:20 (50分)	第2部 グループ別協議② 【テーマ】 ICT機器等を活用した探究的・文理横断的・実践的な学び	
15:20-16:20 (60分)	全体発表・質疑応答	各グループから代表者が発表
16:20-16:30 (10分)	閉会挨拶	萱島 信子 様 WWL コンソーシアム構築支援事業 企画評価会議座長 (独立行政法人国際協力機構 緒方 貞子平和開発研究所 シニアリサーチアドバイザー)
16:30-17:00 (30分)	名刺交換会 兼 情報交換会	自由参加・自由解散 飲食物の提供はございません

【会場利用に関する注意事項】

- 会場内での飲食はご遠慮ください。昼食は近隣の飲食店等をご利用の上、会場外でお済ませください。
- ペットボトルや水筒など蓋付き飲料の持ち込み・水分補給は可能です。
- 空調は環境配慮の観点から適正温度で運用しておりますが、暑さ対策として軽装(ノーネクタイ・ノー上着等)でのご参加を推奨いたします。
- 会場にはクローク等の荷物預かり所がありません。貴重品を含む手荷物は各自の責任で管理ください。
- 無線LAN環境は提供しておりませんので、必要な通信環境は各自でご準備ください。

【グループ別協議の進行方法】

- テーマおよびグループ分けは別紙をご参照ください。各グループは9～10名で構成されています。
- 各グループ内で司会者と記録者を選出し、司会者または記録者が代表して発表してください。
- 協議の構成: 自身の所属機関の取り組み紹介 → ディスカッション → まとめ
- 記録者は配布される記録用紙に要点を簡潔に記載し、全体発表後に提出してください。第1部・第2部ともに提出が必須です。
- WWL企画評価会議委員、文部科学省、株式会社Aoba-BBTの関係者が一部協議に参加する場合があります。

【留意事項】

- 筆記用具はご持参ください(記録用紙・メモ用紙はご用意します)。
- 提出された記録用紙および全体発表の内容は、個人情報等を除いた上で関係機関に共有される場合があります。
- 参加者名簿は7月10日時点の情報に基づいております。当日の欠席・代理出席により変更が発生する可能性があります、全体への周知は行いません。

【全体発表の進行方法】

- 2グループ単位で順次発表(各グループ2分以内)
- 発表内容は、特徴的な取組みや他グループと重複しない点を中心にご報告ください。
- 各テーマの発表終了後、質疑応答を実施します。特徴的な意見がある場合、発表グループ以外の参加者にもご発言をお願いする場合があります。
- 質疑がない場合は、司会より関連テーマについてランダムにご意見を求める場合がございます。

【その他のご案内】

- 本協議会における録音・録画・配信はご遠慮ください。
- 当日の遅刻・欠席・代理出席等の連絡は、下記までお願いいたします。

当日の緊急連絡先:

080-4293-0810(WWLコンソーシアム事務局:高橋)

※受付対応時間:当日9:30以降

※前日までのご連絡は、原則メール<wwl@ohmae.ac.jp>にてお願いいたします。

令和7年度「WWL・SGHN連絡協議会」参加者リスト

	都道府県	所属	職名	氏名	グループ	参加区分
1	北海道	北海学園札幌高等学校	教諭	小林 真史	①	⑤拠点校(委託期間終了校)
2	宮城県	仙台城南高等学校	教諭	高橋 和輝	②	①WWLカリキュラム開発拠点校
3	宮城県	仙台城南高等学校	教諭	相澤 茂紀	③	①WWLカリキュラム開発拠点校
4	宮城県	気仙沼高等学校	教諭	後藤 宗範	④	⑥SGHN
5	山形県	九里学園高等学校	教諭	鈴木 涼子	④	⑥SGHN
6	山形県	山形県立山形東高等学校	教諭	井上 文	⑤	⑥SGHN
7	福島県	福島県立ふたば未来学園高等学校	教諭	林 裕文	⑥	①WWLカリキュラム開発拠点校 ⑥SGHN
8	福島県	福島県教育委員会	教育委員会指導主事	春日 智志	⑦	①WWLカリキュラム開発拠点校 ⑥SGHN
9	茨城県	茨城県教育委員会	教育委員会指導主事	川上 一成	⑧	②グローバル人材育成強化事業
10	茨城県	茨城県立勝田中等教育高等学校	教諭	今村 美里	⑨	②グローバル人材育成強化事業
11	茨城県	東洋大学附属牛久中学校・高等学校	教諭	石塚 俊文	⑩	⑥SGHN
12	千葉県	暁星国際中学校・高等学校コハネ研究の森コース	主任研究員	赤羽根 弥生	①	⑥SGHN
13	千葉県	千葉県立佐倉高等学校	教諭	金井 威道	②	⑥SGHN
14	東京都	創価高等学校	教頭	石野 正好	①	⑥SGHN
15	東京都	関西創価高等学校	教頭	木幡 智明	②	⑥SGHN
16	東京都	佼成学園女子高等学校	教頭兼教務部長	二木 宏明	③	⑥SGHN
17	東京都	富士見丘高等学校	教頭	佐藤 一成	④	⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
18	東京都	都立南多摩中等教育学校	主幹教諭	小出 千亜希	④	⑤拠点校(委託期間終了校)
19	東京都	東京科学大学附属科学技術高等学校	教諭	北原 裕子	⑤	⑥SGHN
20	東京都	都立南多摩中等教育学校	主任教諭	田中 駿一	⑤	⑤拠点校(委託期間終了校)
21	東京都	順天高等学校	国際部長	吉野 裕紀	⑥	⑥SGHN
22	東京都	筑波大学附属高等学校	国際部長	物井 真一	⑥	②グローバル人材育成強化事業
23	東京都	昭和女子大学附属昭和高等学校	教諭	勝間田 秀紀	⑦	⑥SGHN
24	東京都	筑波大学附属坂戸高等学校	校長	深澤 孝之	⑦	②グローバル人材育成強化事業 ⑥SGHN
25	東京都	学校法人大妻学院 大妻中野中学校・高等学校	教頭	水澤 孝順	⑧	②グローバル人材育成強化事業 ⑥SGHN
26	東京都	筑波大学附属坂戸高等学校	主幹教諭	建元 喜寿	⑧	②グローバル人材育成強化事業 ⑥SGHN
27	東京都	啓明学園高等学校	教頭	佐藤 竜之	⑨	⑥SGHN
28	東京都	東京学芸大学附属高等学校	教諭	日渡 正行	⑨	⑥SGHN
29	東京都	学校法人大妻学院 大妻中野中学校・高等学校	教務主幹	高村 亮	⑩	②グローバル人材育成強化事業 ⑥SGHN
30	東京都	渋谷教育学園渋谷高等学校	WWL委員長	北原 隆志	⑩	⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
31	神奈川県	神奈川県立神奈川学園中学校・高等学校	進路指導部長	大塚 雅也	①	⑥SGHN
32	神奈川県	横浜創英中学・高等学校	副校長	山本 崇雄	③	⑦DXハイスクール(重点類型グローバル型)
33	新潟県	三条高等学校	教頭	北畑 雄一郎	②	⑤拠点校(委託期間終了校) ⑦DXハイスクール(重点類型グローバル型)
34	新潟県	三条高等学校	教諭	押木 和子	③	⑤拠点校(委託期間終了校) ⑦DXハイスクール(重点類型グローバル型)
35	富山県	高岡龍谷高等学校	常務理事	米谷 和也	④	⑦DXハイスクール(重点類型グローバル型)
36	石川県	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校	教諭、研究主任	渡會 兼也	⑤	⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
37	福井県	福井県立高志高等学校	教諭	山田 繁	⑥	⑥SGHN
38	山梨県	山梨県教育委員会高校教育課	指導主事	永田 真一郎	⑦	①WWLカリキュラム開発拠点校 ⑥SGHN
39	山梨県	山梨県立甲府第一高等学校	教諭	中 源博	⑧	①WWLカリキュラム開発拠点校 ⑥SGHN
40	長野県	長野県教育委員会事務局 学びの改革支援課	主任指導主事	高野 美美	①	④個別最適な学習環境の構築事業
41	長野県	長野県上田高等学校	教頭	清水 徹	⑨	⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
42	長野県	長野県上田高等学校	教諭	三宅 峻也	⑩	⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
43	岐阜県	岐阜県立関高等学校	教諭	西尾 侑一	②	⑥SGHN
44	静岡県	静岡県立三島北高等学校	教諭	八木 美希	③	⑤拠点校(委託期間終了校)
45	静岡県	静岡県立三島北高等学校	教頭	古瀬 裕也	④	⑤拠点校(委託期間終了校)
46	愛知県	名古屋大学教育学部中等高等学校	主幹教諭	西川 陽子	①	⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN

47	愛知県	名古屋国際中学校・高等学校	校長	小林 格	⑤	⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
48	愛知県	名古屋国際中学校・高等学校	教諭	近藤 佑思	⑥	⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
49	愛知県	名古屋高等学校	教諭 図書・情報部長	杉原 辰雄	⑦	⑥SGHN
50	愛知県	名城大学附属高等学校	教諭	吉川 靖浩	⑧	⑥SGHN
51	愛知県	名古屋大学教育学部附属中・高等学校	教諭	アフリディ マシャー	⑨	⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
52	愛知県	名古屋石田学園星城高等学校	教諭(探究部主任)	西川 智宏	⑩	⑥SGHN
53	三重県	三重県立四日市高等学校	教諭	伊藤 泰二	②	⑥SGHN
54	京都府	京都教育大学附属高等学校	主幹教諭	中村 良平	③	⑥SGHN
55	京都府	京都市立西京高等学校	教育推進部長	田中 英歳	④	⑥SGHN
56	京都府	京都先端科学大学附属高等学校	教諭	茨木 美帆	⑤	②グローバル人材育成強化事業 ⑥SGHN
57	京都府	京都先端科学大学附属高等学校	教頭	橋本 千佳	⑥	②グローバル人材育成強化事業 ⑥SGHN
58	京都府	立命館宇治高等学校	副校長	中島 和也	⑦	⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
59	京都府	立命館宇治高等学校	IM教育部長	高野 阿草	⑧	⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
60	京都府	日吉ヶ丘高等学校	教頭	田中 佑明	⑨	⑥SGHN
61	大阪府	清教学園高等学校	教諭	中西 雅子	①	⑥SGHN
62	大阪府	関西大学高等部	研究開発主任	釈 慶樹	②	⑥SGHN
63	大阪府	清風南海高等学校	総合企画部部长	吉田 成	③	⑥SGHN
64	大阪府	大阪教育大学	学長補佐	鈴木 真由子	④	③地域AL
65	大阪府	大阪教育大学附属高等学校平野校舎	副校長	岩元 健	⑤	⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
66	大阪府	大阪教育大学附属高等学校池田校舎	副校長	田上 一文	⑥	⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
67	大阪府	大阪教育大学附属高等学校池田校舎	教諭	増田 高行	⑦	⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
68	大阪府	高槻高等学校	教諭	松村 栄太郎	⑩	⑥SGHN
69	兵庫県	姫路女学院高等学校	国際連携推進センター副センター長	上田 友梨香	①	②グローバル人材育成強化事業
70	兵庫県	葦合高等学校	主幹教諭?国際科長	竹中 淳	⑧	⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
71	兵庫県	関西学院高等部	副部長	田澤 秀信	⑨	⑤拠点校(委託期間終了校)
72	兵庫県	姫路女学院高等学校	事務局長	摺河 里紗	⑩	②グローバル人材育成強化事業
73	奈良県	育英西中学校・高等学校	教頭	荒木 真由美	②	⑥SGHN
74	奈良県	奈良県教育委員会事務局高校教育課	教育委員会指導主事	宮岸 悠可	③	②グローバル人材育成強化事業
75	奈良県	奈良県立国際高等学校	教諭	松本 真紀	④	②グローバル人材育成強化事業
76	岡山県	岡山学芸館高等学校	教諭	青木 俊道	⑤	⑥SGHN ⑦DXハイスクール(重点類型グローバル)
77	岡山県	岡山学芸館高等学校	副校長	小笠原 健二	⑥	⑥SGHN ⑦DXハイスクール(重点類型グローバル)
78	広島県	広島大学	広島大学WWLコンソーシアム構築支援事業事務局	森 聡子	①	③地域AL
79	広島県	広島県立広島国泰寺高等学校	教諭	上元 真弓	②	⑤拠点校(委託期間終了校)
80	広島県	広島県立広島高等学校(広島県立広島中・高等学校)	主幹教諭	上谷 伸二	③	⑥SGHN
81	広島県	広島大学	副理事(附属学校担当)	由井 義通	⑦	③地域AL
82	広島県	広島大学	広島大学WWLコンソーシアム構築支援事業事務局	横川 知司	⑧	③地域AL
83	広島県	広島大学	広島大学WWLコンソーシアム構築支援事業事務局	梶山 彩佳	⑨	③地域AL
84	広島県	広島大学	広島大学WWLコンソーシアム構築支援事業事務局	沈 彧馨	⑩	③地域AL
85	山口県	山口高等学校	教諭	中野 充代	④	⑦DXハイスクール(重点類型グローバル型)
86	愛媛県	愛媛県立松山東高等学校	教諭	森 恵美子	⑤	⑥SGHN
87	高知県	高知国際高等学校	教諭	前野 佐希子	⑥	⑥SGHN
88	高知県	土佐塾高等学校	教諭	野崎 浩平	⑦	⑦DXハイスクール(重点類型グローバル型)
89	福岡県	中村学園女子高等学校	教育開発部副部長	辻 和真	⑧	②グローバル人材育成強化事業
90	福岡県	中村学園女子高等学校	教育開発部副部長	杉町 由貴	⑨	②グローバル人材育成強化事業
91	長崎県	長崎県立長崎東中学校・高等学校	校長	田川 耕太郎	①	⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
92	長崎県	長崎県立長崎東中学校・高等学校	教諭	鳥居 正洋	⑩	⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
93	宮崎県	宮崎県教育委員会高校教育課	指導主事	小原 陽子	②	②グローバル人材育成強化事業 ⑥SGHN
94	宮崎県	宮崎県立宮崎大宮高等学校	教諭	木場 泰典	③	②グローバル人材育成強化事業 ⑥SGHN

令和7年度「WWL・SGHN連絡協議会」グループ別協議・グループ割

都道府県	所属	職名	氏名	グループ	参加区分
北海道	北海学園札幌高等学校	教諭	小林 真史	①	⑤拠点校(委託期間終了校)
千葉県	暁星国際中学校・高等学校ヨハネ研究の森コース	主任研究員	赤羽根 弥生		⑥SGHN
東京都	創備高等学校	教頭	石野 正好		⑥SGHN
神奈川県	神奈川学園中学・高等学校	進路指導部長	大塚 雅也		⑥SGHN
長野県	長野県教育委員会事務局 学びの改革支援課	主任指導主事	高野 美美		④個別最適な学習環境の構築事業
愛知県	名古屋大学教育学部中高等学校	主幹教諭	西川 陽子		⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
大阪府	清教学園高等学校	教諭	中西 雅子		⑥SGHN
兵庫県	姫路女学院高等学校	国際連携推進センター副センター長	上田 友梨香		②グローバル人材育成強化事業
広島県	広島大学	広島大学WWLコンソーシアム構築支援事業事務局	森 聡子		③地域AL
長崎県	長崎県立長崎東中学校・高等学校	校長	田川 耕太郎		⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
宮城県	仙台城南高等学校	教諭	高橋 和輝	②	①WWLカリキュラム開発拠点校
千葉県	千葉県立佐倉高等学校	教諭	金井 威道		⑥SGHN
東京都	関西創備高等学校	教頭	木幡 智明		⑥SGHN
新潟県	三条高等学校	教頭	北畑 雄一郎		⑤拠点校(委託期間終了校) ⑦DXハイスクール(重点類型グローバル)
岐阜県	岐阜県立関高等学校	教諭	西尾 侑一		⑥SGHN
三重県	三重県立四日市高等学校	教諭	伊藤 泰二		⑥SGHN
大阪府	関西大学高等部	研究開発主任	釈 慶樹		⑥SGHN
奈良県	育英西中学校・高等学校	教頭	荒木 真由美		⑥SGHN
広島県	広島県立広島国泰寺高等学校	教諭	上元 真弓		⑤拠点校(委託期間終了校)
宮崎県	宮崎県教育委員会高校教育課	指導主事	小原 陽子		②グローバル人材育成強化事業 ⑥SGHN
宮城県	仙台城南高等学校	教諭	相澤 茂紀	③	①WWLカリキュラム開発拠点校
東京都	佼成学園女子高等学校	教頭兼教務部長	二木 宏明		⑥SGHN
神奈川県	横浜創英中学・高等学校	副校長	山本 崇雄		⑦DXハイスクール(重点類型グローバル型)
新潟県	三条高等学校	教諭	押木 和子		⑤拠点校(委託期間終了校) ⑦DXハイスクール(重点類型グローバル)
静岡県	静岡県立三島北高等学校	教諭	八木 美希		⑤拠点校(委託期間終了校)
京都府	京都教育大学附属高等学校	主幹教諭	中村 良平		⑥SGHN
大阪府	清風南海高等学校	総合企画部部長	吉田 成		⑥SGHN
奈良県	奈良県教育委員会事務局高校教育課	教育委員会指導主事	宮岸 悠可		②グローバル人材育成強化事業
広島県	広島県立広島高等学校(広島県立広島中・高等学校)	主幹教諭	上谷 伸二		⑥SGHN
宮崎県	宮崎県立宮崎大宮高等学校	教諭	木場 泰典		②グローバル人材育成強化事業 ⑥SGHN
宮城県	気仙沼高等学校	教諭	後藤 宗範	④	⑥SGHN
山形県	九里学園高等学校	教諭	鈴木 涼子		⑥SGHN
東京都	富士見丘高等学校	教頭	佐藤 一成		⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
東京都	都立南多摩中等教育学校	主幹教諭	小出 千亜希		⑤拠点校(委託期間終了校)
富山県	高岡龍谷高等学校	常務理事	米谷 和也		⑦DXハイスクール(重点類型グローバル型)
静岡県	静岡県立三島北高等学校	教頭	古瀬 裕也		⑤拠点校(委託期間終了校)
京都府	京都市立西京高等学校	教育推進部長	田中英歳		⑥SGHN
大阪府	大阪教育大学	学長補佐	鈴木 真由子		③地域AL
奈良県	奈良県立国際高等学校	教諭	松本 真紀		②グローバル人材育成強化事業
山口県	山口高等学校	教諭	中野 充代		⑦DXハイスクール(重点類型グローバル型)
山形県	山形県立山形東高等学校	教諭	井上文	⑤	⑥SGHN
東京都	東京科学大学附属科学技術高等学校	教諭	北原 裕子		⑥SGHN
東京都	都立南多摩中等教育学校	主任教諭	田中 駿一		⑤拠点校(委託期間終了校)
石川県	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校	教諭、研究主任	渡會 兼也		⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
愛知県	名古屋国際中学校・高等学校	校長	小林 格		⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
京都府	京都先端科学大学附属高等学校	教諭	茨木 美帆		②グローバル人材育成強化事業 ⑥SGHN
大阪府	大阪教育大学附属高等学校平野校舎	副校長	岩元 健		⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
岡山県	岡山学芸館高等学校	教諭	青木 俊道		⑥SGHN ⑦DXハイスクール(重点類型グローバル)
愛媛県	愛媛県立松山東高等学校	教諭	森 恵美子		⑥SGHN

福島県	福島県立ふたば未来学園高等学校	教諭	林 裕文	⑥	①WWLカリキュラム開発拠点校 ⑥SGHN
東京都	順天高等学校	国際部長	吉野 裕紀		⑥SGHN
東京都	筑波大学附属高等学校	国際部長	物井 真一		②グローバル人材育成強化事業
福井県	福井県立高志高等学校	教諭	山田 繁		⑥SGHN
愛知県	名古屋国際中学校・高等学校	教諭	近藤 佑思		⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
京都府	京都先端科学大学附属高等学校	教頭	橋本 千佳		②グローバル人材育成強化事業 ⑥SGHN
大阪府	大阪教育大学附属高等学校池田校舎	副校長	田上 一文		⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
岡山県	岡山学芸館高等学校	副校長	小笠原 健二		⑥SGHN ⑦DXハイスクール(重点類型グローバル)
高知県	高知国際高等学校	教諭	前野 佐希子		⑥SGHN
福島県	福島県教育委員会	教育委員会指導主事	春日 智志	⑦	①WWLカリキュラム開発拠点校 ⑥SGHN
東京都	昭和女子大学附属昭和高等学校	教諭	勝間田 秀紀		⑥SGHN
東京都	筑波大学附属坂戸高等学校	校長	深澤 孝之		②グローバル人材育成強化事業 ⑥SGHN
山梨県	山梨県教育委員会高校教育課	指導主事	永田 真一郎		①WWLカリキュラム開発拠点校 ⑥SGHN
愛知県	名古屋高等学校	教諭 図書・情報部長	杉原 辰雄		⑥SGHN
京都府	立命館宇治高等学校	副校長	中島 和也		⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
大阪府	大阪教育大学附属高等学校池田校舎	教諭	増田 高行		⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
広島県	広島大学	副理事(附属学校担当)	由井 義通		③地域AL
高知県	土佐塾高等学校	教諭	野崎 浩平		⑦DXハイスクール(重点類型グローバル型)
茨城県	茨城県教育委員会	教育委員会指導主事	川上 一成	⑧	②グローバル人材育成強化事業
東京都	学校法人大妻学院 大妻中野中学校・高等学校	教頭	水澤 孝順		②グローバル人材育成強化事業 ⑥SGHN
東京都	筑波大学附属坂戸高等学校	主幹教諭	建元 喜寿		②グローバル人材育成強化事業 ⑥SGHN
山梨県	山梨県立甲府第一高等学校	教諭	中 源博		①WWLカリキュラム開発拠点校 ⑥SGHN
愛知県	名城大学附属高等学校	教諭	吉川 靖浩		⑥SGHN
京都府	立命館宇治高等学校	IM教育部長	高野 阿草		⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
兵庫県	葦合高等学校	主幹教諭?国際科長	竹中 淳		⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
広島県	広島大学	広島大学WWLコンソーシアム構築支援事業事務局	横川 知司		③地域AL
福岡県	中村学園女子高等学校	教育開発部副部長	辻 和真		②グローバル人材育成強化事業
茨城県	茨城県立勝田中等教育高等学校	教諭	今村 美里	⑨	②グローバル人材育成強化事業
東京都	啓明学園高等学校	教頭	佐藤 竜之		⑥SGHN
東京都	東京学芸大学附属高等学校	教諭	日渡 正行		⑥SGHN
長野県	長野県上田高等学校	教頭	清水 徹		⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
愛知県	名古屋大学教育学部附属中・高等学校	教諭	アフリディ マシャール		⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
京都府	日吉ヶ丘高等学校	教頭	田中 佑明		⑥SGHN
兵庫県	関西学院高等部	副部長	田澤 秀信		⑤拠点校(委託期間終了校)
広島県	広島大学	広島大学WWLコンソーシアム構築支援事業事務局	梶山 彩佳		③地域AL
福岡県	中村学園女子高等学校	教育開発部副部長	杉町 由貴		②グローバル人材育成強化事業
茨城県	東洋大学附属牛久中学校・高等学校	教諭	石塚 俊文	⑩	⑥SGHN
東京都	学校法人大妻学院 大妻中野中学校・高等学校	教務主幹	高村 亮		②グローバル人材育成強化事業 ⑥SGHN
東京都	渋谷教育学園渋谷高等学校	WWL委員長	北原 隆志		⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
長野県	長野県上田高等学校	教諭	三宅 峻也		⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN
愛知県	名古屋石田学園星城高等学校	教諭(探究部主任)	西川 智宏		⑥SGHN
大阪府	高槻高等学校	教諭	松村 栄太郎		⑥SGHN
兵庫県	姫路女学院高等学校	事務局長	摺河 里紗		②グローバル人材育成強化事業
広島県	広島大学	広島大学WWLコンソーシアム構築支援事業事務局	沈 暁啓		③地域AL
長崎県	長崎県立長崎東中学校・高等学校	教諭	鳥居 正洋		⑤拠点校(委託期間終了校) ⑥SGHN

文部科学省

WWL コンソーシアム構築支援事業・

SGHネットワーク

令和7年度 連絡協議会

取り組み発表

共に学び、共に創る未来

～ASEANとの協働から拓くグローバル探究と卒業後へのインパクト～

筑波大学附属坂戸高等学校

共に学び、共に創る未来

～ASEANとの協働から拓くグローバル探究と卒業後へのインパクト～



筑波大学附属坂戸高等学校

建元 喜寿

本日の発表内容

- 筑坂のこれまでの歩み
- WWL(グローバル人材育成強化事業)での構想
- 高校・大学・企業が連携した海外研修の開発
- 海外連携校と実施する国際協働探究とユース会議
- SGH・WWLで海外研修を経験した卒業生のその後
- 今後の構想

筑坂のこれまでの歩み

- ASEAN諸国との連携は15年以上継続
 - 「相互の学び合い」と「社会との接続」を重視
- 
- 2010年からインドネシアの高校と協働プロジェクトを開始(トヨタ財団アジア隣人プロジェクト)
- 
- 2014年よりSGH指定、インドネシアでの研修を単位化し、タイ、フィリピンの高校とも連携協定締結
- 2019年よりWWL拠点校。アジア学院における国内版国際フィールドワークを開発
 - 2024年よりWWL2度目の拠点校

森林の多面的機能を小学生に伝える



日本とインドネシアの高校生の合同チームで環境教育の出前授業@小学校

WWL(グローバル人材育成強化事業)の構想

アジア版エラスムス計画実現に向けた 高大接続型ネットワーク構築

- 連携国:インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア
- 連携機関:SEAMEO(東南アジア教育大臣機構) APP社(製紙会社)、アジア学院
- 活動例:国際協働探究、海外でのシンポジウム、高大合同海外研修、国際教育実習

筑波大学WWL(ワールドワイドラーニング)コンソーシアム グローバル人材育成強化構想概要

開発構想 「アジア版エラスムス計画実現に向けた高大接続型ネットワーク構築」

設定したグローバル課題に基づく
連携先とのプログラム開発



当事者性・責任・気候変動・森林・食・農



APP

企業とSDGs

SDGsをテーマにした国際現場研修と
グローバルキャリア選択



世界との共生
コミュニティ構築

アジア・アフリカの地域リーダーとの交流による
地球市民としてのグローバルマインド育成

拠点校における強化事業

オータムギャップを伴う
2学期制導入

海外校との
協働探究プログラム開発

海外校での
高校生国際セミナーの共催

学びたい場所・探究したい場所・活動したい場所に
自ら羽ばたける人材

世界のあらゆる人と壁無く協働し共生していける人材

共創型グローバル人材
育成を目指す外部連
携

SEA-Teacherを
日本の学校へ普及

東南アジア教育大臣機構を通じた
域内の大学・高校とのネットワーク構築



アセアンと日本の高校生
大学生・教員の流動化促進

連携先リソースの
共有による他国展開

海外校と日本の
高校とのハブ

筑波のコアコンピタンスに基づく
AL-NETWORKの形成

SEAMEO共同機関
(Affiliate Member) 参画
(国内で唯一)

国際教育実習(SEA-Teacher)の
日本国内で初の実施



管理機関の将来構想

国内における
先取り履修制度の拡充

JV-Campusによる海外連携校も
含めたプログラム提供

アセアン諸国の大学との
先取り履修制度の検討

SEAMEO(東南アジア教育大臣機構)と連携した 国際教育実習(SEA-Teacher)



インドネシア教育大学から来日した
国際教育実習生の授業の様子

高校・大学・企業が連携した海外研修の開発

インドネシア・スマトラ島における グローバル企業と連携したプログラム開発

- 渡航先:インドネシア リアウ州プカンバル
- 連携機関:APP社(製紙会社:日本に支社あり)
Belantara Foundation
- 参加者:筑波大学「国際農業研修VII履修者」、
筑波大学附属坂戸高等学校、
愛媛大学附属高等学校、メディア関係者

大学生×高校生混成チームで渡航













自分の日常生活とインドネシア の森のつながりを考え始める

国際協働探究と国際セミナーの実施

- 各国の高校で取り組まれている探究活動のテーマ収集と共有(SDGs関連、社会課題等)
- 1年間の学校暦の情報共有とプログラム開発

インドネシア: 高大接続科目としての海外研修を企業と連携し開発
複数の日本の高校も合同で参加する

タイ: カセサート大学附属高等学校、愛媛大学附属高等学校と
バンコク郊外の有機農場で合宿型研修を実施予定

マレーシア: サバ大学およびその連携高校と、コタキナバルに
おける生物多様性保全をテーマにした研修を実施予定

フィリピン: フィリピン大学附属ルーラル高校と探究成果合同発表
会の開催可能性を検討中



@インドネシア・ボゴール農科大学

第1回インドネシア日本
SDGsユース国際セミナー



@栃木県アジア学院
withインドネシア・コルニタ高校

卒業生の追跡調査

- 高校時代にインドネシアの海外研修に参加した約20名の卒業生にインタビュー
- 参加経験が進路選択等に与えた影響を調査

・「コミュニケーションの壁」、「他者との協働の壁」、「国・人種への壁」の3つの壁が、インドネシア人との相互作用の中で消し去られた。



・大学生活においても、自分を大切にしつつ、社会への貢献意識や共生意識をもち続けていた。



・大学選択、大学での学び方、キャリア選択など、中長期的に影響を与えていた。

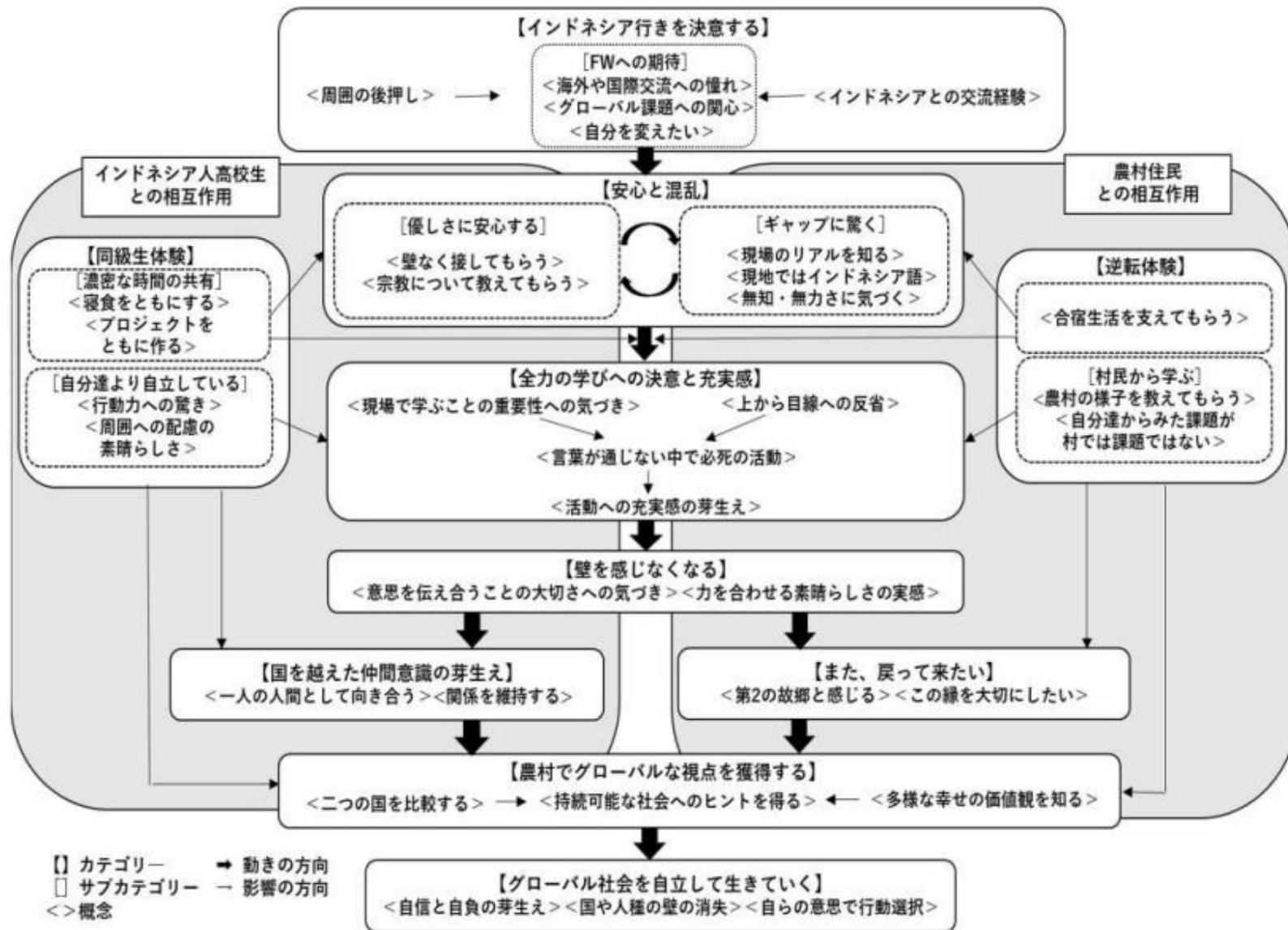


図1 インドネシア農村部における探究学習を通じて日本人高校生が変容していくプロセス

海外研修体験における日本人高校生の変容プロセス：インドネシア農村部におけるフィールドワークに焦点を当てて (建元・大川, 2022)ESD研究5 41-49より引用

・渡航前まで、先進国日本から途上国に支援することが国際協力と考えていた



・インドネシアで同級生のインドネシア人高校生の行動力の高さに圧倒されたり、助けようと考えていた農村住民に逆に助けられたり、森のことを教わるといった体験をする。



・国を越えて共に学び共に生きていくことの大切さに気付く

追跡調査のまとめ

- 1) 高校時代に国際協働型の海外研修を経験することは、大学を選ぶ視野を広げ、自己の進路選択におけるチャンスを拡大させることにつながる。
- 2) 大学入学後も、大学の授業やゼミ活動を自己の経験と合わせて評価する視点や、国内外における積極的な活動へとつながる
- 3) 大学生活において「日本人学生への物足りなさ」や「大学自体への不満」を抱えることもあることもわかった。しかし、その際に、大学の中だけにとどまらず学外にも活動の場を広げ、海外研修プログラムをともにした仲間とも国を越えて、時に支え合いながら、大学生活を過ごしている
- 4) 就職や大学院での研究内容においてもグローバルな展開も含め多様な選択を可能にさせていた

まとめ

- 目的やねらいをもった海外研修を実施すること
→ 渡航先、連携先、継続性
- 複数の高校でリソースを共有すること
→ 生徒のチャンス拡大、学校の負担の軽減
- 高大接続は、高校にも大学にもメリットがある
→ 大学生のキャリア選択にも影響する
- 高校時代に海外研修に行く重要性の再確認
→ 中長期的に影響する

ありがとうございました。

Terima kasih banyak

文部科学省

WWL コンソーシアム構築支援事業・

SGHネットワーク

令和7年度 連絡協議会

取り組み発表

グローバル・イノベーター育成の カリキュラムの開発研究

-新教科の構築とグローバルプログラムの相互作用を通して-

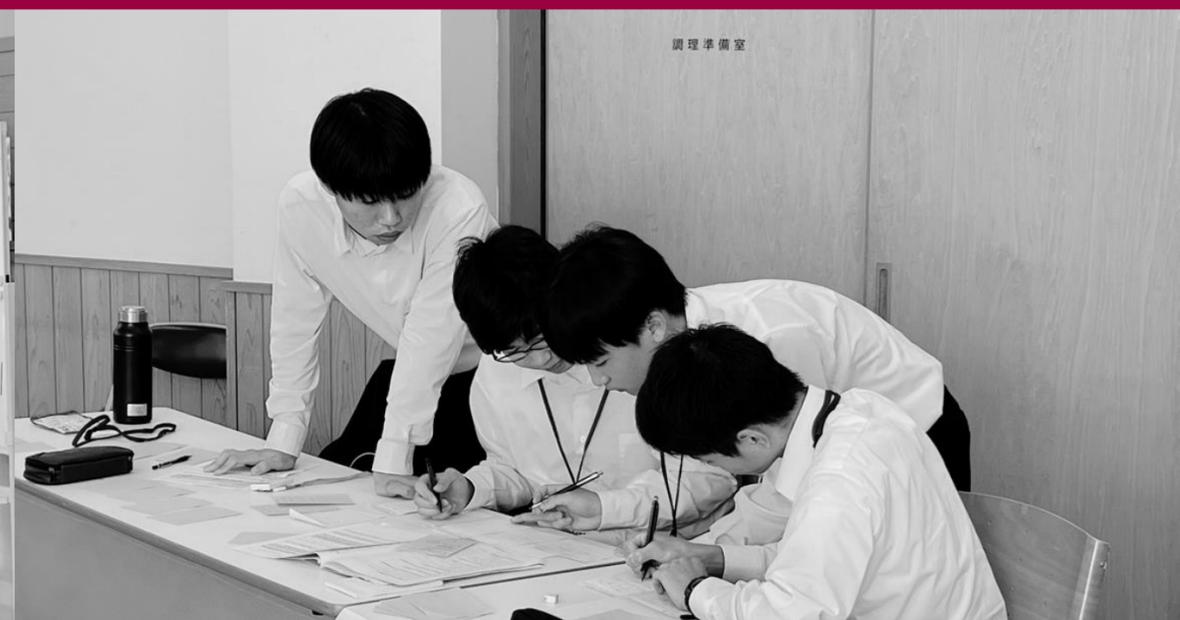
宮崎県立宮崎大宮高等学校



グローバルイノベーター育成のカリキュラムの開発研究 -新教科の構築とグローバルプログラムの相互作用を通して-

文部科学省WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)
コンソーシアム構築支援事業(グローバル人材育成強化事業)

宮崎県立宮崎大宮高等学校



MIYAZAKI OMIYA

宮崎大宮高等学校
創設の時

宮崎大宮 第二の時代の始まりは
第二次世界大戦にあった

校歌は後輩に送る メッセージ

真理を探り，美にあこがれ，善を行う

昭和21年当時、県下の学校教育はすべてアメリカ占領軍の支配下におかれており、その年は五月雨が早くきて、いつまでも降りつづいた。四月二十日も朝から雨が振っていた。われわれ教師も生徒も自分の机を両手に持って、雨に濡れながら黙々と大宮小学校まで運んだ。私たちはそこで三か月勉強しました。毎日降りつづく雨で、教員室から教室へゆく道は泥んこであった。私はその時受けた屈辱の思いをいまだに忘れることができない。そのとき心に深く焼きつけられた屈辱の思いが校歌のモチーフである。

われわれは戦争によって多くのものを失った。しかしどんなことがあっても決して失ってはならないものがあるはずだ。どんな強大な力でも壊されないものがあるはずだ。永遠に変わらないものがあるはずだ。それを求めるのが教育ではないか。そう思って、真・善・美というイデーに到達した。こうして校歌は生まれたのである。

この校歌は、かつて同じ学校で学んだ一人の先輩が、後輩諸君へ贈る遺言である。最後につけ加えれば、真・善・美のイデーを包括するもう一つの大きなイデーのあることを忘れてはならない。平和である。

(「大宮高校百年史」より一部改変)



普通科

2年次より
文系・理系
に別クラス

各学年7クラス

文科
情報科

3年間
文理融合クラス
科目選択で
分かれる

各学年2クラス

1888年 宮崎県立宮崎中学校設立

1947年 新制宮崎大宮高等学校発足

1989年 文科情報科設置(←80年代:国際化・情報化)
・「個性的で創造性豊かな人物」の育成
・「探究」プログラム開始(2007年～)

2015年 SGH指定校

■郷土に対する誇りと柔軟な国際感覚にあふれる
グローバル・リーダーの育成

2020年 WWLコンソーシアム構築支援事業
カリキュラム開発拠点校指定

■多様な人々とゆたかな世界を協創する
イノベーター(変革者)

2024年 WWLコンソーシアム構築支援事業
(グローバル人材育成強化事業)指定

本校の教育目標とWWL事業

本校の教育目標

- 「**真理**を探り、**美**にあこがれ、**体**を鍛え、**善**を行う」
- 高く**自分に自信と誇り**をもち、**ふるさとを愛する**とともに、柔軟な**国際感覚**と国家や社会に貢献する気概と**リーダー性**
- 知・徳・体の調和のとれたたくましい人材の育成を目指す
[運営目標]
- よき伝統、よき校風を継承
- 宮崎県をリードする学校**として、常に**進化**し続ける中で、生徒の「**自主自律**」の**精神の育成**を目指す学校

文科情報科の目標

- 創設の理念
 - ・「国際化」や「情報化」の著しい進展に備え、生徒一人ひとりの**文科学的特性**や**能力の育成**
 - ・21世紀の社会が求める能力を身につけ、主体的・積極的に活躍できる**個性的で創造性豊かな人物**
- 「志は高く、裾野は広く」
- 様々な学校生活や探究活動等の場をとおして、**国際的視野**を持ちながら**社会的自立**をめざし、**広く社会で活躍**が期待できる**イノベーター**を育成する。
ゆたかにとがる

文科省WWL事業の趣旨

- 将来、新たな社会を牽引し、世界で活躍できる**ビジョン**や**資質・能力**を有した**イノベーティブなグローバル人材**を育成

宮崎県WWL事業の趣旨

- ゆたかな世界を協創する**イノベーター**

本校WWL事業で育成する人物像

グローバル・コ=クリエイター

枠組みをこえて、多様な人々と協働しながら、創造的な解決方法を提案する力(協創力)をそなえる

3 グローバル・コ=クリエイターとは？

枠組みをこえて，多様な人々と協働しながら，
創造的な解決方法を提案する力(協創力)をそなえる

日本
大学生

台湾
姉妹校生徒

ベトナム
姉妹校生徒

ベトナム
姉妹校生徒

本校生



「グループ=ジーニアス」
(キース・ソーヤ)

[枠を越える学び]

文系 × 理系
社会課題 × 科学技術
地元 × 世界
プロジェクト × 研究



個人研究
分野・系統を究める

3つの問い
What am I?
How do I relate to others?
What I contribute to the world?

枠組みをこえて、**多様な人々と協働**しながら、**創造的な解決方法**を提案する力(**協創力**)を身につける

異文化・異分野・他者との協働を通して
新たな自己を発見する

MIYAZAKI OMIYA

宮崎大宮高等学校
卒業生

世界のどこかを
支えてきた卒業生

岩切章太郎氏

- 旧制宮崎中学校出身，観光宮崎の父
- 世界を視野に入れた価値創造—「空の時代」
- 地域資源(風景・気候・文化)をグローバル市場に接続する発想
- 1960年代～1970年代前半 「新婚旅行ブーム」
(1972年の新婚カップルの約4分の1が新婚旅行に宮崎を選ぶ
上皇ご夫妻が南九州、宮崎にもご訪問)

柴田紘一郎医師

- 宮崎大宮高等学校出身
- 1960年代後半から3年間、長崎大学熱帯医学研究所ケニア研究所に出向し、ケニア・ナクールなどで地域医療に従事。
- 地元住民や国際機関との協働により、異文化理解と医療支援を同時に推進
- さだまさし「風に立つライオン」のモデル，2015年映画化





「食」を通じてゆたかな世界を協創する イノベーターの育成



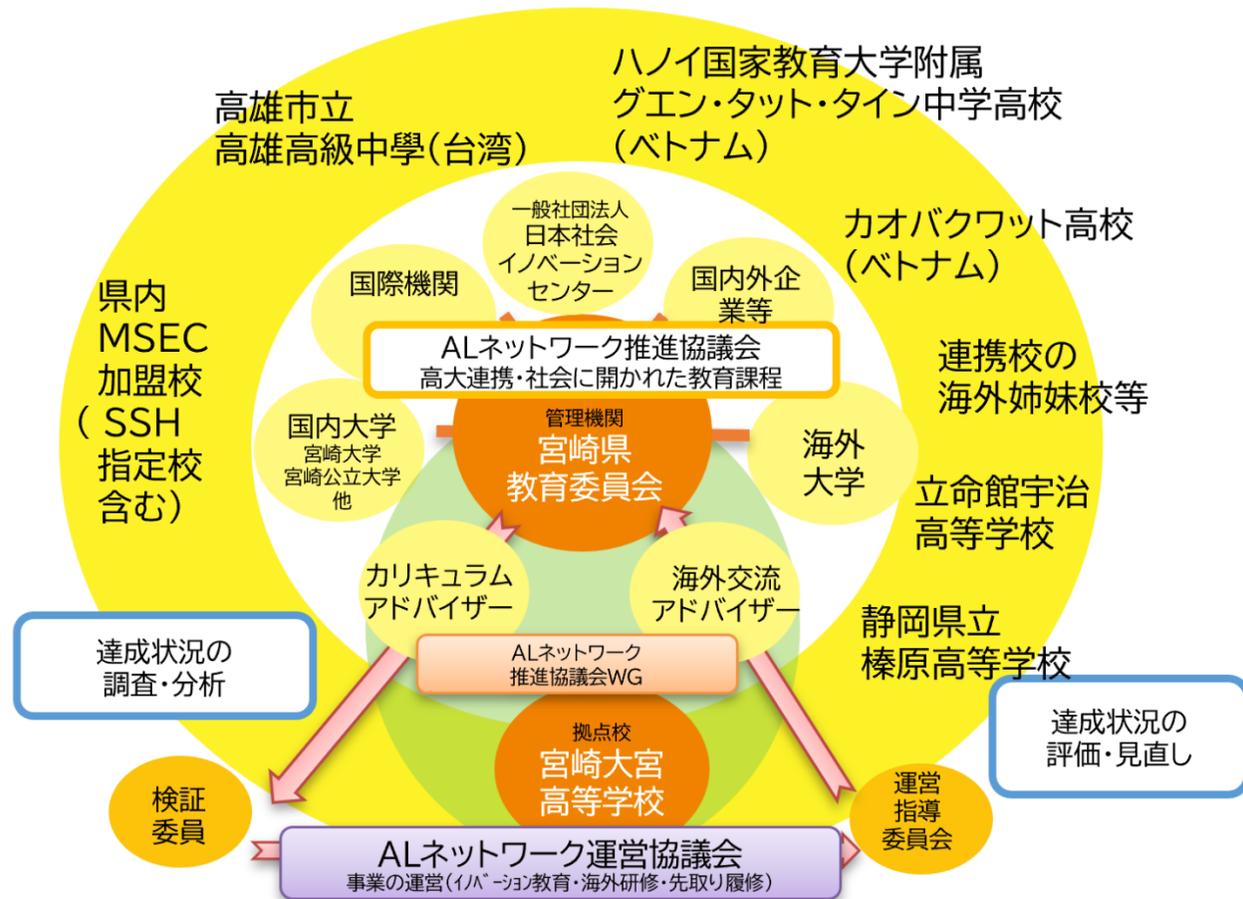
育成をめざす資質・能力

- イノベティブな課題解決を構想・設計する能力
- 高度かつ学際的な知識にもとづき、課題の理解や解決策を提案する能力
- 国内外の人々と課題解決に向けて協働する能力

ALネットワークで取り組むテーマ



共育組織への進化をめざす
「ひなたALネットワーク」

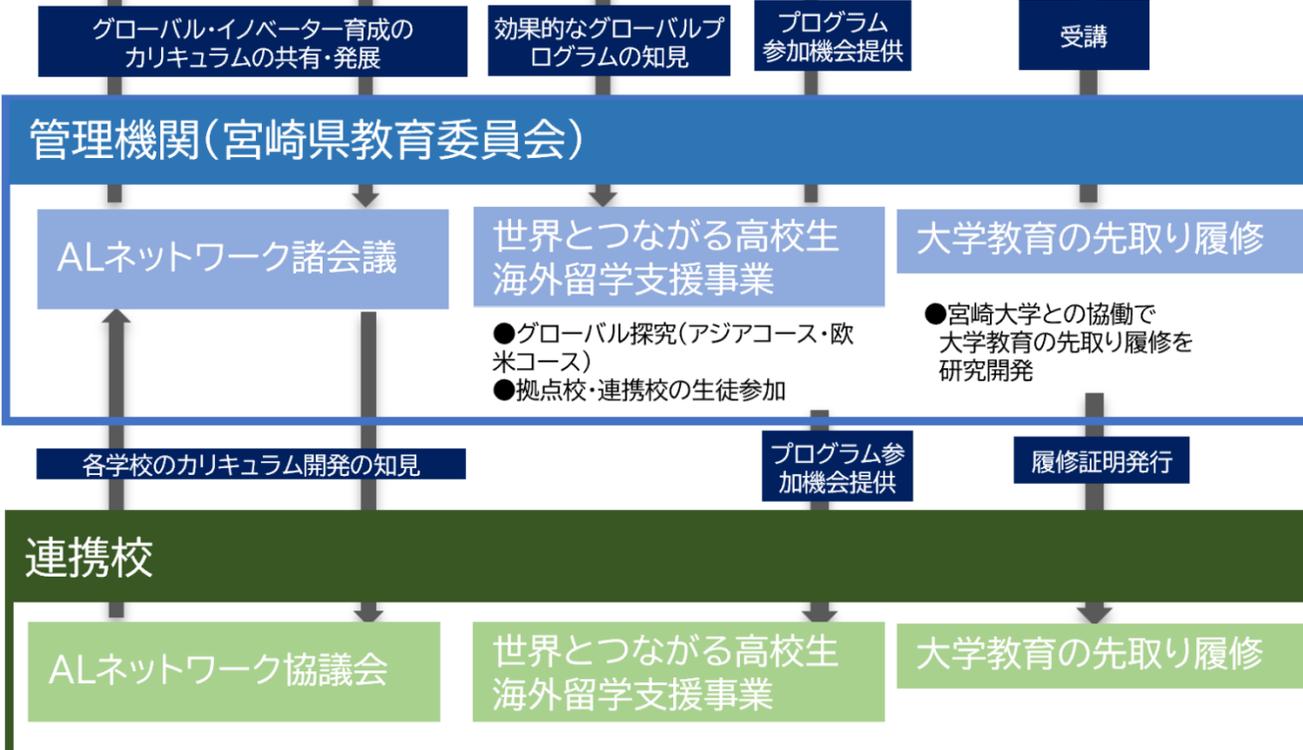


本申請のポイント

- 拠点校コア教科「グローバル協創」に全員必修の「姉妹校リーダー研修」創設、評価法のさらなる開発
- 拠点校 海外研修・海外高校生受け入れ授業・高度な学び(国内外大学の授業の受講)の単位認定化
- 管理機関 連携校の生徒も参加できる海外留学制度、大学先取り履修の組織的な運用

拠点校で研究開発(宮崎大宮高等学校)

中心課程(コア教科・科目)		周辺課程	
「グローバル協創」研究開発		カリキュラムの一部としての海外研修・海外留学	
1年	グローバル協創Ⅰ(3)	グローバルイノベーター研修	台湾研修
	情報科学基礎(2)		ベトナム研修
	姉妹校リーダー研修(1)		シンガポール研修
2年	グローバル協創Ⅱ(2)	姉妹校留学	米国研修
	グローバル協創Ⅲ(1)		海外受入体制(単位認定)
3年	グローバル協創Ⅲ(1)	イノベーションプログラム	高度な学びの条件整備



グローバル高校生フォーラム

本校SGH事業で育成する人物像

郷土に対する誇りと柔軟な国際感覚にあふれる
グローバル・リーダーの育成

+ 協創力

←スタンフォード大学
東京大学i.school
慶應義塾大学SDM

文情
科

探究プログラムの開発(総学+情報)



高大連携を基軸とした産官学連携の探究活動の開発



英語でのポスターセッションに向けたカリキュラム

グローバル・プログラムの開発



海外研修の開発(研究調査, 台湾・ベトナム・シンガポール)



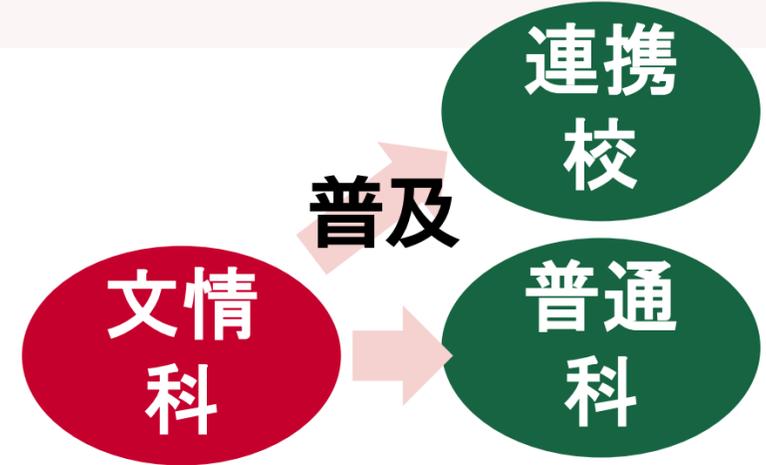
国内外を牽引する大学生
とのサマープログラム

台湾・ベトナムの高校生との
サイエンスプログラム

カリキュラム開発 ②WWL拠点校(2020年度～2023年度)

本県WWL事業で育成する人物像

ゆたかな世界を協創するイノベーター



教科「グローバル協創」の開発(総探+情報)



探究活動を教科に，評価方法の開発(多面的評価，テスト法)

グローバル・プログラムの開発



オンラインのグローバルプログラム

米国短期留学の開発

Why use wood?

the sustainability of building materials



- more renewable
- less carbon emissions
- biodegradable



台湾・ベトナム・シンガポールとの共同研究，高校生国際会議の開催

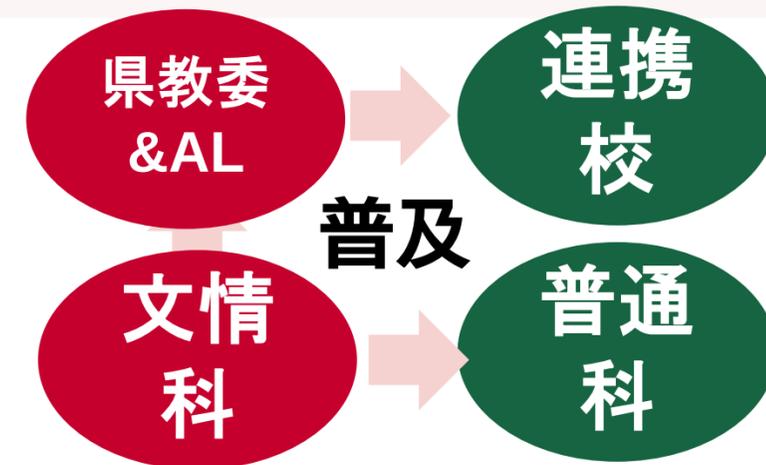


オンラインのサマープログラム

台湾・ベトナムの高校生とのサイエンスプログラム

本県WWL事業で育成する人物像

ゆたかな世界を協創するイノベーター



探究プログラムの開発(総学 + 科人)

宮崎大宮WWL株式会社
入社式



社会との接続・技法を強化, 探究の見える化



英語でのポスターセッションに向けたカリキュラム

グローバル・プログラムの開発



県留学支援事業の開始
(台・越・星・米・豪)

姉妹校海外研修の再開
(台湾・ベトナム)



台湾・ベトナムの高校生とのサマープログラム

文科情報科の目標

学んでいる
生徒のコメント本校や文科情報科に
対する県民の期待

グローバル協創の目標の再設定

グローバル	地元・世界の視野 文理横断(分野横断)の視座 ボーダーレスの視点
協	自己認識・自己管理 社会認識と関係構築 責任ある意思決定
創	論理的思考 批判的思考 複眼的思考 水平思考 共感 表現力



本校WVL事業で育成する人物像

グローバル・コ=クリエイター

枠組みをこえて、国内外の人々と協働しながら、
創造的な解決方法を提案する力(協創力)をそなえる

教科「グローバル協創」(文科情報科必修教科・科目)

グローバル協創1(1年次)

グローバル協創2(2年次)

グローバル協創3(3年次)



1

プロジェクト学習

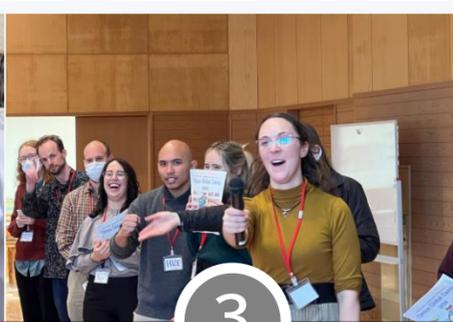
2回のプロジェクト学習で、新たなモノ・コトを生み出す方法論を学ぶ(協創の基礎)



2

食の科学

理科の4分野で、社会と科学技術と探究の技法を関連づけて学ぶ。



3

グローバルコミュニケーション

グローバルキャンプを通して英語4技能活用、論理的思考・批判的思考を学ぶ



4

グローバルリサーチⅠ

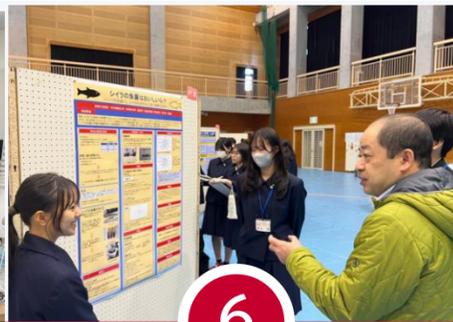
地元と世界を結びつけてプロジェクトを構想し、研究課題を設定する



5

グローバルリサーチⅡ

設定した課題を解明するため、計画を立て、調査・実験を行い分析する



6

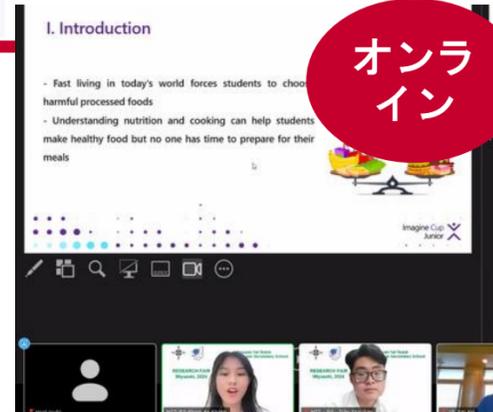
グローバルリサーチⅢ

日本語・英語でのポスターセッション、研究論文の作成を通して、表現方法を学ぶ



対面

グローバル高校生フォーラム



オンライン

グローバルプログラム
(希望者)



イノベーションサマープログラム

台湾・ベトナムの海外姉妹校の生徒とともに英語でアイデアを創出する



姉妹校海外研修
グローバルプログラム

台湾・ベトナムの姉妹校に没入し、探究テーマについてプレゼン・ディスカッション



姉妹校との研究協力

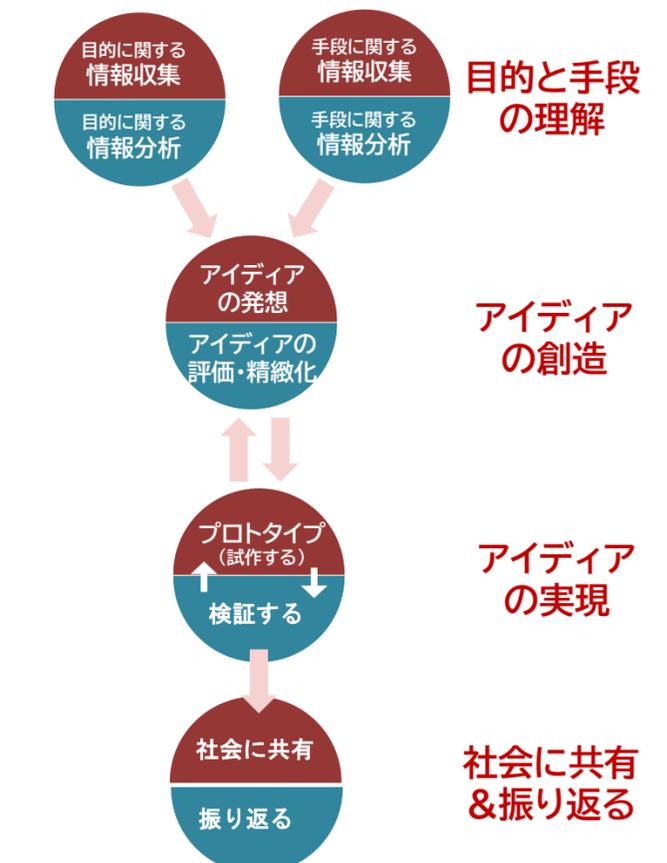


台湾・ベトナムの姉妹校の生徒
ネットワーク連携校の生徒
参加してともに英語で発表
今年度 校名が参加
台湾・ベトナム・タイの学校の参加



プロジェクト学習

探究の一連のプロセス・マインド・スキルを学ぶ

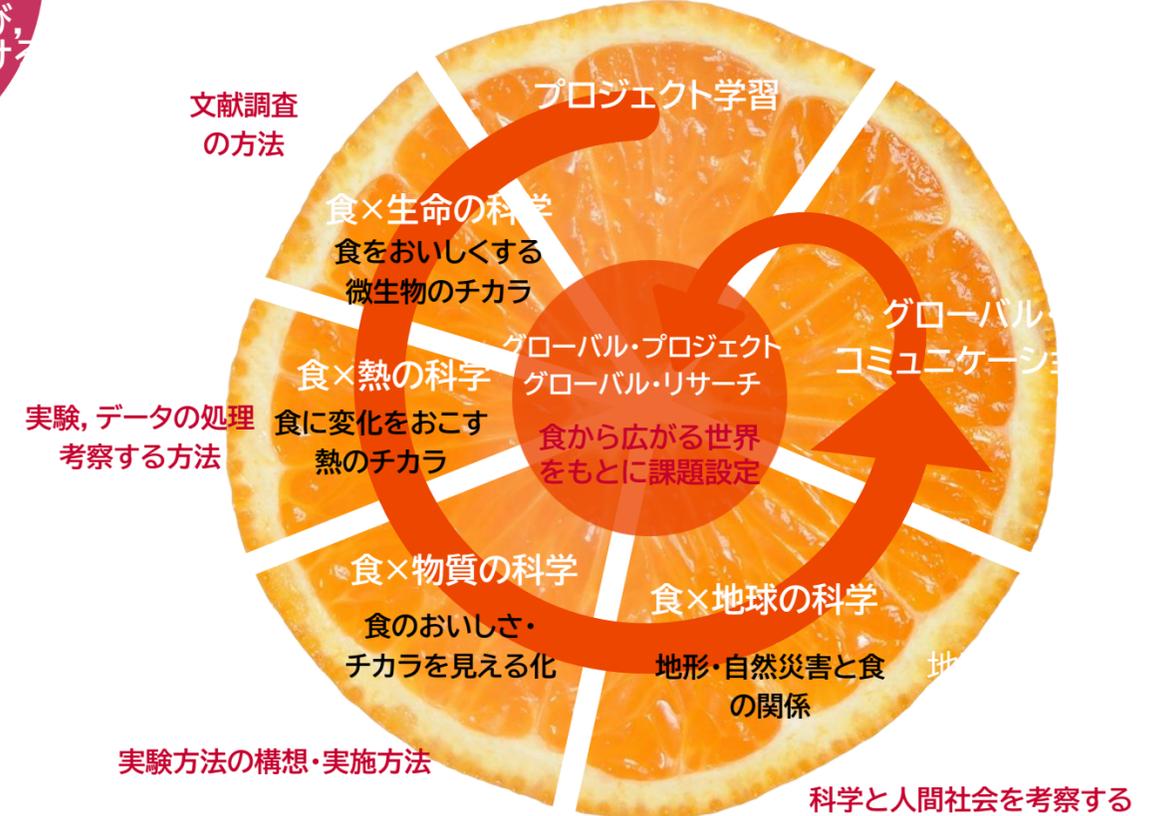




食の科学

食をキーワードに
科学と人間社会を学び、
探究の技法を身につける

i.school流の課題解決のプロセス





 Japan Social
Innovation Center
i.school 日本社会イノベーションセンター

2009年に東京大学知の構造化センターに創設。世界のデザイン思考を研究, 独自のイノベーション教育の方法を開発。現在は独立し, 教育プログラムi.schoolを運営。TISPでは, 全体ファシリテーション, 大学生ディスカッション・パートナーの支援。



 Miyazaki Omiya
Senior High School
宮崎県立宮崎大宮高等学校と宮崎県の連携校

1989年に設置された文科情報科は, 2015年から文部科学省の指定を受けて, グローバルリーダー育成のプログラムを開発している。特色ある教科「グローバル協創」を実施し, i.schoolのアイデア発想の方法を取り入れたカリキュラムを実施している。TISPでは, 高校生の支援や全体の運営を行う。

イノベーション
プログラム



 Kaohsiung
Senior High School
高雄市立高雄高級中學(台湾)

日本統治下の1922年に創設された南台湾の高雄市にあるトップ校。戦前の旧制中学の伝統をもち, 宮崎大宮高等学校と, 2015年11月に姉妹校締結。



 Nguyen Tat Thanh
Lower & Upper Secondary School
ハノイ国家教育大学附属
グエン・タット・ティン中学・高等学校

国立の教育大学の附属校。ベトナム・ハノイ市内の優秀な生徒が集まる。2023年3月に姉妹校締結。



交流パート
(国際交流をしたい人向け)



ホームステイ
(海外研修を視野に入れている人)

イノベーション
プログラム



TISP(東京イノベーション・サマー・プログラム)
大学生がメンター、日本・台湾・ベトナムの生徒が混合チームを結成
宮崎の企業の強みを発見し、アイデアを構想し、発表する
5日間の協創プログラム



イノ
ベー
ション
プログラム



TISP
(文科情報科を中心)



企業フィールドワーク



ワークショップ



INNOVATION
PROGRAM 2024



グローバル
コミュニケーション





グローバル リサーチ I



03 グローバル・リサーチ1の日程

回	月	日	曜	限	内容(予定)	活動場所
1	1	24	金	6	ガイダンス/チーム論/ プロジェクト①マイ探究プロジェクト発表	視聴覚室・図書閲覧室
2	1	24	金	7	プロジェクト②チーム探究プロジェクトを構想	視聴覚室・図書閲覧室
3	1	31	金	6	プロジェクト③チーム探究プロジェクトを評価・検討	視聴覚室・図書閲覧室
4	1	31	金	7	プロジェクト④チーム探究プロジェクトを設定	視聴覚室・図書閲覧室
5	2	7	金	6	研究①ガイダンス/問い(リサーチエッセション)の創出	視聴覚室・図書閲覧室
6	2	7	金	7	研究②問い(リサーチエッセション)の評価	視聴覚室・図書閲覧室
7	2	21	金	6	研究③研究方法の構想	視聴覚室・図書閲覧室
8	2	21	金	7	研究④研究方法の設定	視聴覚室・図書閲覧室
9	3	13	金	6	スライド内容の共有・打ち合わせ	視聴覚室・図書閲覧室
10	3	13	金	7	発表練習	視聴覚室・図書閲覧室
行	3	14	金	567	木曜校時:課題設定発表会	視聴覚室





姉妹校
Kaohsiung
 Senior High School

高雄市立高雄高級中學(台灣)

Miyazaki Prefectural Miyazaki Omiya Senior High School

高雄市立高雄高級中學
 Kaohsiung Municipal Kaohsiung Senior High School



姉妹校海外研修
 (台灣)



国立成功大學
 国立台湾大学



現地宮崎出身者との交流



学校の授業
 行事体験



探究テーマの
 フィールドワーク(調査)
 プレゼンテーション





姉妹校

Nguyen Tat Thanh

Lower & Upper Secondary School

ハノイ国家教育大学附属
グエン・タット・ティン中等教育学校



MOU SIGNING CEREMONY

between
Miyazaki University's Senior High School
and
Nguyen Tat Thanh Lower & Upper Secondary School
March, 10th 2023



姉妹校海外研修
(ベトナム)





県留学支援事業
米・星
台・越・豪



宮崎大学と宮崎県立宮崎大宮高等学校 連携協力協定調印式



宮崎大宮



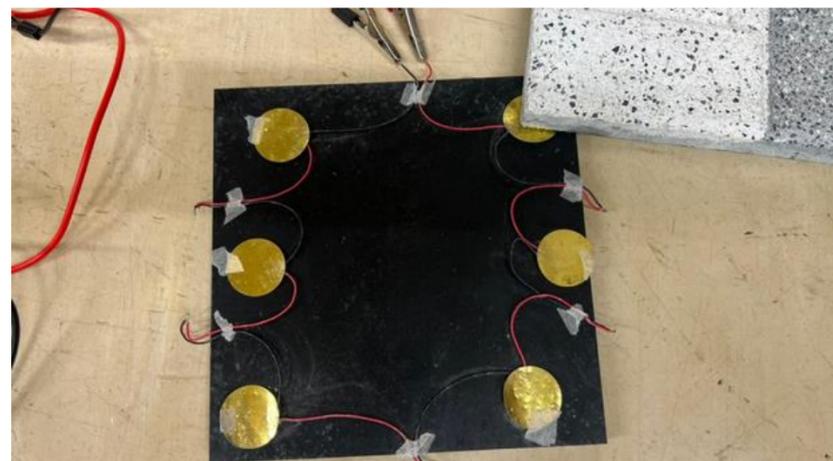
国立大学法人
宮崎大学



宮崎大宮



グローバル
リサーチII





WWL生徒探究発表会



グローバル リサーチⅢ

グローバル高校生フォーラム



Deodorizing by bamboo

~How to use bamboo efficiently~

グローバル高校生フォーラム作品

Sato • kan

~Can Satokan go beyond Karukan?~

Miyazaki Omiya High School 3rd grade Hina Ikubo Aika Ueda Yui Tsumagari Reia Tsuruta Eita Matsumoto Akira Yoshitani

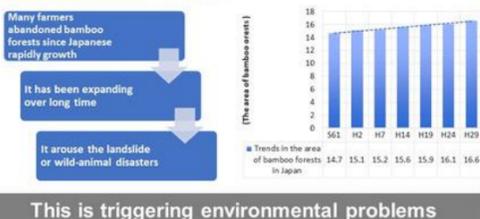
Miyazaki Omiya High School humanity-course group 5 (Kawano • Kurogi • Murayama • Oshikawa • Todaka • Yano)

Abstract

Mountainous areas in Japan have several problems. One of them is that the reduction in the people who treat bamboo groves leads to uncontrollable expansion of its habitat area. Another is that organic fertilizers, which are attracting attention due to soaring fertilizer prices, often have a strong ammonia odor, which is one of the reasons why young people shy away from working as a farmer. In order to solve these two problems at the same time, it can be effective to use bamboo charcoal to use a deodorizer because it has positive effects especially against ammonia. In this study, the relevance between the amount of bamboo charcoal and its deodorizing effect against organic fertilizers is examined in the first experiment, and the effect of bamboo charcoal on plant growth is investigated in the second experiment. The first experiment shows that the amount of bamboo fertilizer corresponds to how powerful the deodorizing effect is, and the second experiment showed that some fertilizers improve plant growth. From these results, we conclude that adjusting the bamboo charcoal content according to the degree of odor of the fertilizer can reduce odors more effectively without inhibiting plant growth.

Backgrounds

Bamboo damage

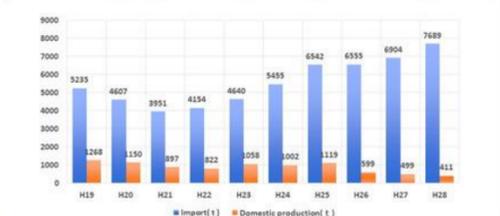


Finding new ways to use bamboo

Bamboo charcoal



However, Japan is depending on the import



Sludge fertilizer

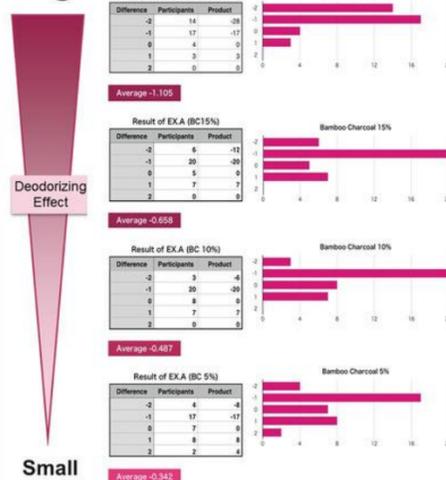


Improving odor of sludge fertilizer

Research Method1

Research Result1

large



Small

Discussion1

- The more the ratio of the bamboo charcoal is increased, the higher the deodorizing effect would become.
- Adding bamboo charcoal to other fertilizers would give similar results.

Research Method2



Weights(g)	1st	2nd	3rd	4th	5th	Average	standard deviation
①	15	18	20	19	10	16.4	3.611
②	22	21	20	21	20	20.8	0.748
③	16	16	13	19	17	16.2	1.939
④	24	22	21	20	14	20.2	3.370
⑤	13	19	13	21	19	17	3.347
⑥	16	15	16	15	17	15.8	0.748

Change rate:
Oil cake 0.81 times
Sludge 1.22 times
Chicken manure 1.03 times

Standard deviation
The value of sludge smaller

Discussion2

- The small amount of phosphoric acid in oil cake hindered broccolis from growing
- The small amount of growth inhibiting component in sludge and nutrient retention capacity of bamboo made broccolis grow more. Also, they made the standard deviation small.
- Probably, the calcium contained chicken manure and bamboo charcoal are alkaline, which made broccolis grow less.

Conclusion

- It can be said that bamboo charcoal would be an appropriate new way to use
- The appropriate amount of bamboo charcoal for both deodorization and growth promotion should be examined.

References/Acknowledge

- Bamboo roll: Why does bamboo damage occur? Viewed June 14, 2023 https://bambooroll.jp/blogs/study/bamboo_utilization
- Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(2023)Basic knowledge about sludge fertilizer. Viewed July 13, 2023 https://www.maff.go.jp/j/kanbo/joho/saigai/odei_qa.html
- Tsuyama National College of Technology(2003)The deodorizing effect of bamboo charcoal Viewed July 2, 2023 <https://www.tsuyama-ct.ac.jp/fujiwara/dassyuu.htm>

Q. What is Satokan ?

A. It's made from taro.

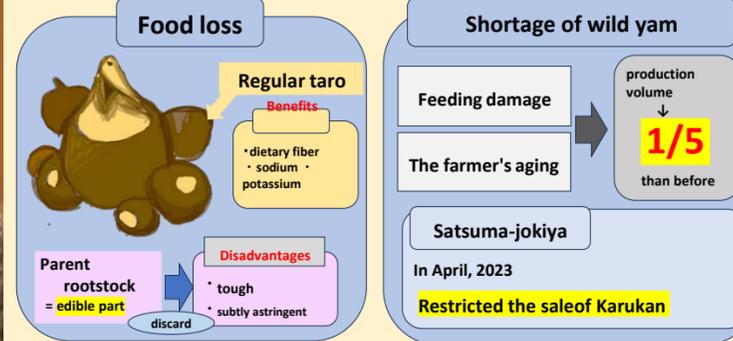


Karukan Background

<Miyazaki>
Taro→12,000t
3rd in Japan

Purpose of research

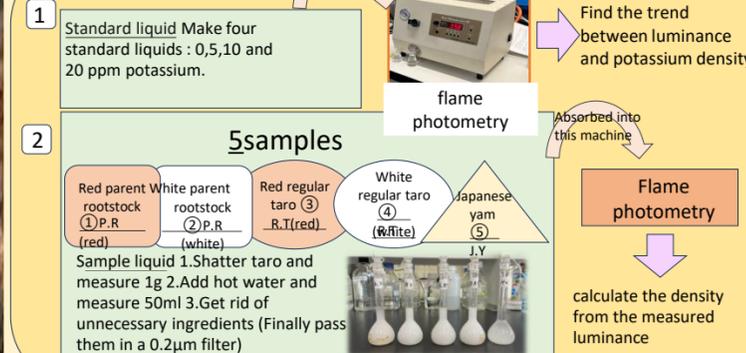
Parent taro can be alternative ingredient to Japanese yam



Experiment 1 Purpose

Parent rootstock is superior to regular taro and Japanese yam in nutritional value

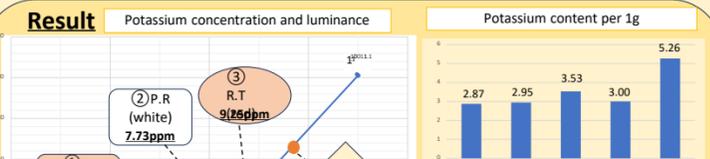
Method



Hypothesis

The amount of potassium: Japanese yam < parent rootstock < regular taro

Result



Experiment 2

Purpose

To examine whether satokan can be an alternative for karukan in texture, smell, taste, appearance

(a) First cooking Exploring the use of taro in karukan → use regular taro instead of parent rootstock (Ingredients) taro 150g/yam 150g/ rice powder 300g/egg whites 3/sugar 300g <Instructions> 1. Peel and finely mash taro. 2. Mix sugar, egg whites, and rice powder 3. Do the same process for yams. 4. Grease cups with oil, pour the mixture into them, and steam for 15 minutes. (b) Second cooking

Comparing satokan made with taro and karukan made with yam.

(Ingredients) taro 150g(each regular and parent)/yam 300g/ rice powder 300g/

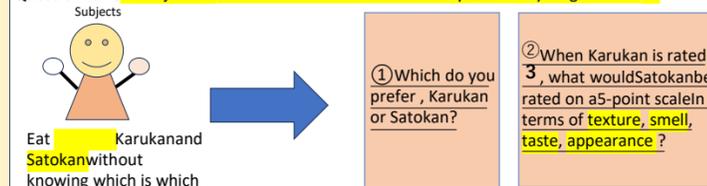
egg whites 6/sugar 300g/water 150g/some oil

<Instructions> Same as above



Satokan

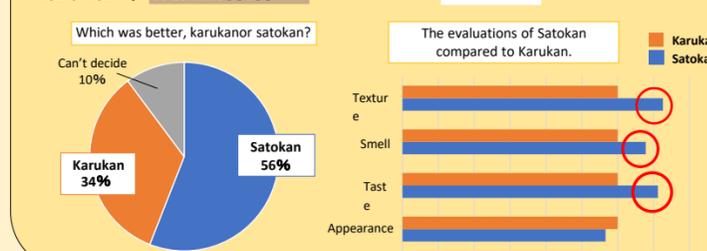
Questionnaire (Subjects : 50 students and 9 teachers in Miyazaki Omiya high school)



Hypothesis

But Satokan > Karukan (texture, smell) Satokan < Karukan (taste)

Result Satokan → a little better than Karukan



Discussion

- Satokan had a little brown color because we cooked it with red taros.
- More people liked Satokan because it was sweeter.

Conclusions

- Parent rootstock has less nutrient content (potassium) than regular taro, but not much different.
- Although there are differences in taste, parent rootstock is fully usable as ingredients. Satokan is not

事例紹介



宮崎大宮高校 × 宮崎大学 高大連携

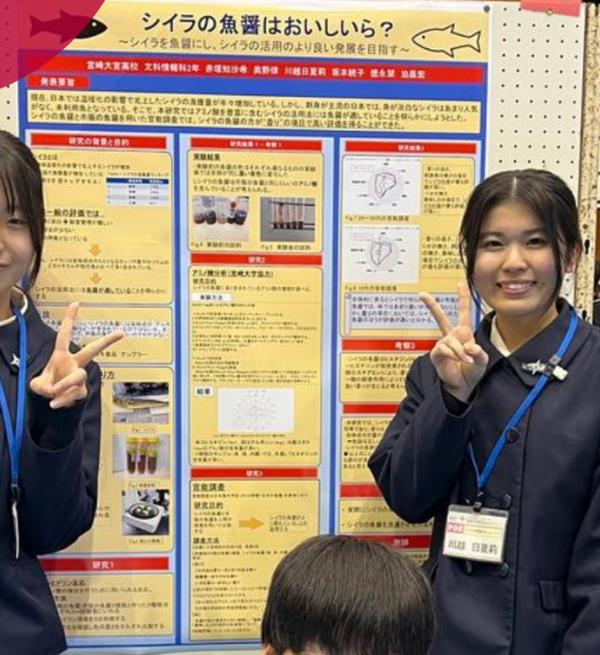
三菱みらい育成財団
高校生MIRAI万博

「第1部 高校生たちの成果発表」
2025.7.31

チームで、万博へ!

2025年7月31日、万博のEXPOホールで、
高校生が探究の成果を発表します!

関西万博EXPOホールでの
プレゼンテーション6発表に、宮崎大宮高校文科情報科のチームShira
(宮崎大学農学部 田岡先生の助言)が選ばれました。



シラの魚醤はおいしいら? ~シラを魚醤にし、シラの活用のより良い発展を目指す~

宮崎大宮高校 文科情報科2年 赤塚知沙希 奥野律 川越日夏莉 坂本統子 徳永菜 泊昌宏

発表要旨

現在、日本では温暖化の影響で北上したシラの漁獲量が年々増加している。しかし、刺身が主流の日本では、身が淡白なシラはあまり人気がなく、未利用魚となっている。そこで、本研究ではアミノ酸を豊富に含むシラの活用法には魚醤に適していることを明らかにしようとした。シラの魚醤と市販の魚醤を用いた官能調査では、シラの魚醤の方が「香り」の項目で高い評価を得ることができた。

研究の背景と目的

シラとは

- 地球温暖化の影響で北上するシラが増加
- 全国で漁獲量が増加している

Table.1 シラの漁獲量ランキング (宮崎は全国トップクラス)

都道府県	漁獲量(t)
高知	1762
宮崎	1094
長崎	1039
三重	971

世間一般の評価では..

- 身が薄く淡白 + 鮮度管理が難しい
- 活用法が少ない
- 未利用魚となっている

しかし、シラには旨味成分のもととなるタンパク質やカリウムなどのミネラルが他の魚と比べて多く含まれている。

シラの活用法には魚醤に適していることを明らかにする

仮説

市販の魚醤と同じくらいシラの魚醤には旨味成分(グルタミン酸やイノシン酸など)が含まれているのではないかと。また、身が淡白なので、市販の魚醤より旨味のクセが少ないのではないだろうか。

※使用する市販の魚醤
アライド ナンブラー/ユウキ食品 ナンブラー

シラの魚醤の作り方

速醸法は田岡(2022)の先行事例を参考に行った。

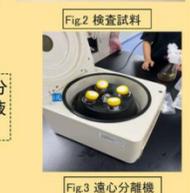
- ①シラを頭、内蔵、身の3部位に分けてすり身にし、それぞれを醤油麹(比率はシラ:10 醤油麹:2 塩:3)とともにタッパーにいれる。



- ②1日おきに攪拌し、4日間、恒温装置内で55度に保つ。



- ③45mlずつとり5分間遠心分離機にかけたあの上澄み液をろ過する。



研究1

ニンヒドリン反応
→ アミノ酸の検出を行うために用いられる反応。

実験方法

1. 5種類の魚醤(市販の魚醤2種類と作った3種類)をそれぞれ3ml試験管にいれる
2. ニンヒドリン溶液を3分加熱する
3. 色の変化を確認し色の濃さをそれぞれ比較する

研究結果1・考察1

実験結果

- 実験前の魚醤の色はそれぞれ異なるものの実験後では全部が同じ濃い紫色に変化した
- シラの魚醤は市販の魚醤と同じくらいのアミノ酸を含んでいることが考えられる。



研究2

アミノ酸分析(宮崎大学協力)

研究目的

シラの魚醤に多く含まれているアミノ酸の種類を調べる。

実験方法

- AccQ-Tag法によるアミノ酸のHPLC分析
1. AccQ-FBB溶液(1)を140 μLをエプベンチュープに入れる。
 2. 分析試料または検量液試料を各20 μL加える。
 3. AccQ-Fluor Reagent溶液(2)を40 μL加え、ポルテックスで攪拌する。
 4. キャップブロックをフロッパーにセットし、ウォーターバスで55℃、10分反応させる。
 5. 水気をよく拭き取った後、Milli-Q水を800 μL加え、ポルテックスで攪拌する。
 6. ビペットマン1000 μLを用いし、全量をオートサンブラー用のビンに移す。
 7. 高速液体クロマトグラフィー(HPLC)オートサンブラーに設置する。

結果



Fig.6 試料中のアミノ酸の割合

● 身はヒスチジン(His)、頭はアルギニン(Arg)、内蔵はタウ(tau)のアミノ酸の含有量が多い。

● 3種類のサンプル(身、頭、内蔵)では、共通してヒスチジンの含有量が多い。

研究3

官能調査

官能調査は日本海学誌(2016)特集「日本の魚醤」を参考にを行う

研究目的

シラの魚醤と市販の魚醤を人間の感覚を用いて比較する

調査方法

- 【対象】大宮高校の生徒19名 教員8名
【準備物】市販の魚醤2種類 シラの魚醤(頭、身、内蔵)塩分濃度計 飲料水
【香り】
くせのある香り→まろやかな香り
刺激臭→まろやかな香り
いやな香り→好ましい香り
上記の項目で6段階(-3,-2,-1,0,1,2,3)で評価する。
*0はどちらとも言いえないとする
0を上回ればプラス、0を下回ればマイナスとし、平均値を算出する。
その値を各試料の官能評価値とする。
【味】
魚醤の塩分濃度を0.8%に調整し、「塩味」「うま味」「甘味」「酸味」「苦味」「美味しさ」の6項目の各強度について、6段階評価(-3,-2,-1,0,1,2,3)を行う。

研究結果3



Fig.7 20~50代の官能調査

● 香りの良さ、刺激臭の無さの項目でシラの身が最も評価が高い。

● くせの無さ、美味しさの項目で、シラの頭が最も評価が高い。



Fig.8 10代の官能調査

● 全体的に見るとシラで作られた魚醤と市販の魚醤では、味ではあまり違いが見られない。しかし香りの項目においては、シラで作られた魚醤のほうが評価が高いと分かる。

考察3

- シラの魚醤はヒスチジン(His)の含有量が多い。
- ヒスチジンが脱炭素されると生成されるアミン化合物(ヒスタミン)により、香りが良くなると考えられる。
- 一部の酵素作用によってヒスチジンが分解・変化し、良い香りが生じると考えられる。

結論

- 本研究では、シラを利用した魚醤は市販の魚醤と味は同等であり、香りはより優れていることが分かった。
- 旨味成分の量の差はあまり見られなかった。
- 仮説は正しい。
- シラの各部位で作った魚醤間でもあまり差はなかった。
- 以上のことから、シラから魚醤を作ることは、廃棄される部分が多い未利用魚であるシラの有効的な活用法であると言える。

今後の展望

- 実際にシラの魚醤を用いて料理をする
- シラの魚醤を流通させる方法を考える

謝辞

本研究を進めるにあたり、宮崎大学農学部海洋環境学 田岡洋介教授には、指導教員として終始熱心なご指導を頂きました。心から感謝いたします。また、成分分析にご協力くださった同僚田中寛介教授、温かいご助言を頂いた同僚上田氏、松村氏、シラの調達にご協力くださった西森鮮魚店の皆様にも大変お世話になりました。お礼申し上げます。

参考文献

1. Green Growers 2024 "気候変動による漁業への影響"
2. 日本海学誌2016 "市販魚の品質調査ならぬ味調査"
3. 田岡洋介 2022 "チョウザメの内臓から魚醤を迅速に製造する方法"
4. 磯辺由香他. 2017 "食品実験書". 医歯薬出版株式会社.

学びの変化「シイラの魚醤はおいしいら？」

学期	主な学びの変化	代表的なコメント(原文)
1年 3学期	関心の共有・テーマ選定・構造化への一歩	「今回は前回何個かに厳選したテーマの中から大体一つのテーマに絞り込むことができた。そのテーマは、宮崎県で大量にとれる魚『シイラ』についての研究です。(日本全体ではなく宮崎県が主役なのでより詳しく独自性のあるテーマになるという意図のもと選んだ)」
2年 1学期	計画の具体化・外部連携・専門性の芽生え	「大学の先生によると、シイラのふりかけや料理を作るにしても何かと比較することが大切ということがあったので、比較しながらシイラの特徴をもっと生かしていきたいと思った。」
2年 2学期	実験・発信・フィードバックの実行期	「今日は実際に宮崎大学に行ってシイラの魚醤を作った。時間を延長してもらって予定していたところまで作り終えることができた。初めてあんなに大きな魚をさばいて大変だったが良い機会になった。」
2年 3学期	論文化・自己評価・表現の洗練	「論文を完成させた。論理的に組み立てて文章を書くので数学の証明みたいでおもしろかった。自分で論文を書くことで研究の要旨がよりはっきりと頭に入って自信がついたような気がした。」
3年 1学期	英語での成果発信・発表力の飛躍	「英語での発表をしました。原稿を見ながらでないとしても発表ができない状態で準備不足だなと感じた。今回の発表で構成はだいたいわかったなので、次は原稿をみらずに発表したい。」

1.異文化理解の上にボーダレスな世界観:

多くの生徒が、異なる文化や価値観を持つ人々との交流を通じて、視野が広がったと述べています。特に、姉妹校の生徒とのディスカッションを通じて、異文化に対する理解と尊重の重要性を実感したとの声が多い。

- ・コメント「海外の友人と話をする中で、自分の価値観が広がったと感じました。日本の文化が独特だと改めて気づかされました。」「他国の学生が持つ考え方や生活習慣について知ることによって、自分の中の偏見が解消されました。」「文化が違うからこそ、一緒に作り上げるプロセスが面白く、学びが大きかったです。」

2.コミュニケーション能力の向上:

言語能力だけでなく、相手に伝わりやすい表現やプレゼンテーションスキルの向上を感じた参加者が多いようです。また、非言語的なコミュニケーションの重要性も認識されたようです。

- ・コメント「最初は英語が苦手でしたが、だんだん話すことへの抵抗がなくなり、伝え方を工夫するようになりました。」「言葉だけでなく、ジェスチャーや図を使って説明することの大切さを学びました。」「プレゼンテーションの準備を通じて、自分の考えを整理し、効果的に伝えるスキルが身についたと感じます。」

3.チームワークと協働の経験:

異なる背景を持つメンバーと協力してプロジェクトを進める中で、リーダーシップやフォロワーシップの役割を経験し、チームで成果を上げることの難しさと達成感を味わったとの意見が多い。

- ・コメント「チーム内で意見がぶつかることもありましたが、話し合いを重ねて良い結果が出せたときの達成感は忘れられません。」「リーダーとしてチームをまとめることの難しさを知り、同時にメンバーの協力がいかに重要かを痛感しました。」「それぞれの強みを活かすことで、1人ではできないことを実現できると実感しました。」

4.自己成長と自信の獲得:

初めは不安や緊張を感じていたものの、活動を重ねる中で自己成長を実感し、自信を深めたというコメントが多い

- ・コメント「最初は全てにおいて不安でしたが、回を重ねるごとに自信が付き、自分の意見を積極的に発言できるようになりました。」「新しい環境で挑戦することで、自分の限界を広げることができたと感じます。」「失敗を恐れずに行動することの大切さを学び、自分を成長させる機会となりました。」

5.将来への視野拡大:

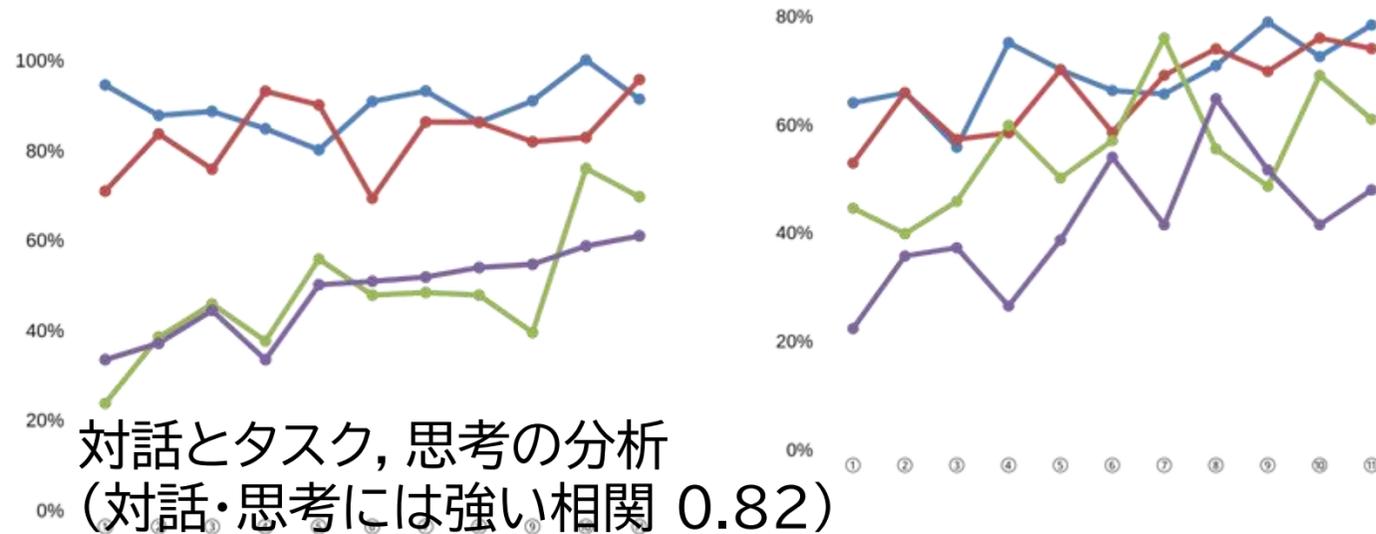
将来の進路やキャリアに対する考え方が変化し、国際的な舞台で活躍したいという意欲を持つようになった生徒も多い

- ・コメント「今回の経験を通じて、将来は国際協力の仕事に就きたいと考えるようになりました。」「グローバルビジネスに興味を持ち、大学ですらに深く学びたいと思います。」「自分が持っているスキルや知識を活かして、国際社会で活躍できる人材になりたいと考えるようになりました。」

◆成果

・グローバル・コ=クリエイター育成のカリキュラムの確立

※プロジェクト×研究型, 文理融合型, ローカル×グローバル型の探究のカリキュラム
 (👉 科学技術人材育成とは異なる)



種別	月	R	L	W	S	計
未経験者	6月	209	220	237	224	890
	12月	205	218	236	260	919
台湾	6月	225	251	247	229	952
	12月	207	244	244	268	963
ベトナム	6月	240	243	246	241	971
	12月	232	258	244	272	1006
シンガポール	6月	241	241	237	237	955
	12月	233	252	253	285	1022

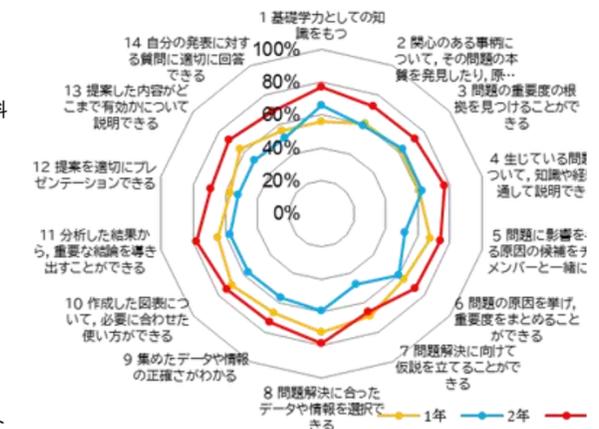
海外体験の半年後に英語学力の伸びが顕著

氏名	担当	分担された内容								職員評価	総合評価	グループでの主体性と対話								職員評価	総合評価						
		生徒1	生徒2	生徒3	生徒4	生徒5	生徒6	生徒7	生徒8			生徒1	生徒2	生徒3	生徒4	生徒5	生徒6	生徒7	生徒8								
A田				A										A													
B山				B										B													
C川				A										B													
				A										A													
				B										A													
				B										A													
				B										B													

主体性に関する多面的評価(本人・チームメンバー・教員)

1 食品ロスに関する資料1～資料3を読み、後の問いに答えなさい。

資料1は、「食品ロスの発生要因」について、生産や流通などにかかわる「事業」（ここでは「事業系」と呼ぶ）と「家庭」（ここでは「家庭系」と呼ぶ）に分けて示された資料である。
 資料2は、生産、製造・加工、流通、消費の工程における「食品ロスの現象」について書かれた資料である。
 問1 資料1・資料2を関連づけて食品ロス問題を包括的にとらえ、読み取ることができる事項を整理し、2つの資料を分析し、たあなたが解決すべき課題を設定し、その理由を説明しなさい。
 問2 問1で設定した課題を解決するために、まとめた事項をもとに上で、「食品ロスを減らすための“あなた独自のイノベティブな解決策”」を考案し、述べなさい。
 なお、イノベティブとは、社会的に有用であり、新しい要素のある解決方法のことである。
 問3 問2で構想したプロジェクトについて、以下の2つの点で検討し、課題点を挙げなさい。
 ①社会的有用性（社会にとって有用であるか）、②新奇性（既存の取り組みとは異なる新しい要素があるか）（検証） 資料1「食品ロスの発生要因」<省略> 資料2食品ロスの発生要因<省略> 資料3 食品ロスの現象<省略>（出典）消費者庁「フードロス・チャレンジ・プロジェクトご紹介」より、一部改変



探究の学力測定(テスト法)

探究スキルの変化の分析



◆成果

- 生徒のローカルをつくり, グローバルな挑戦のきっかけ
(県外大学で宮崎の研究/大学の代表として海外派遣)
- 学び続ける生徒の増加 — 大学院に進学する生徒が増加



- 連携機関との関係の深まりによるコ=クリエーション
(高大連携の全学的な広がり/海外姉妹校とともに東大研修/姉妹校側が現地大学研修)

◆課題

- チームの中での個人の見とり
 - └一人ひとりの成長と、何をどう評価するのか
- グローバルプログラム等の単位認定化にむけて
- 教科系統学習のカリキュラムとの関係性
- 文科情報科の全員研修の検討
 - └カリキュラムの強化と、費用の課題

ご清聴ありがとうございました!!

自律自強



Miyazaki Omiya
Senior High School
since 1888



文部科学省

WWL コンソーシアム構築支援事業・

SGHネットワーク

令和7年度 連絡協議会

取り組み発表

グローバルな視点をもつ

資質・能力育成のための取り組み:

広島大学WWLコンソーシアム構築支援事業

広島大学



WWL

WORLD WIDE LEARNING
FOR HIGH SCHOOL STUDENT



広島大学 WWL (ワールド・ワイド・ラーニング)

コンソーシアム構築支援事業

広島大学 WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアム構築支援事業

西日本における拠点間のネットワーク構築と、連携大学による高大接続

ALネットワーク拠点の情報集約 HPによる情報と成果の発信 高大接続におけるアドバンスド プレイスメント

異文化間学習・国際理解学習のオンラインセミナーや、地球的課題をテーマとしたフォーラムを実施

平和、ジェンダー、環境などをテーマとしたオンラインセミナー オンラインフォーラムでは講師と高校生が討論

広域的WWLコンソーシアムの構築

西日本のALネットワークの成果を集約 全国拠点機関と連携

WWL カリキュラム開発拠点校 8校

広島大学附属福山高等学校

広島県立広島国泰寺高等学校

長崎県立長崎東高等学校

愛媛大学附属高等学校

岡山県立岡山操山高等学校

熊本県立熊本高等学校

宮崎県立宮崎大宮高等学校

中村学園女子高等学校

- 各県の教育委員会、大学と連携した西日本における拠点校ネットワークの構築
- 高大連携のオンラインセミナーの実施
- 高大接続のアドバンスト プレイスマントを検討

イノベータータイプなグローバル人材育成を実施する学校 56校

広島大学附属高等学校
広島市立舟入高等学校
広島県立呉三津田高等学校
広島県立広島高等学校
広島県立福山誠之館高等学校
広島県立叡智学園高等学校
広島県立西条農業高等学校
福山市立福山高等学校
広島女学院高等学校
ノートルダム清心高等学校
武田高等学校
英数学館中学校・高等学校
広島県立賀茂高等学校
近畿大学附属広島高等学校東広島校
広島市立基町高等学校

岡山県立岡山一宮高等学校
岡山県立岡山城東高等学校
岡山県立岡山工業高等学校
岡山県立倉敷天城高等学校
岡山県立倉敷中央高等学校
岡山県立玉島高等学校
岡山県立和気閑谷高等学校
岡山県立岡山大安寺中等教育学校
岡山県立津山高等学校
山口県立下関西高等学校
山口県立山口高等学校
鳥取県立鳥取西高等学校
鳥取県立米子東高等学校
島根県立出雲高等学校
島根県立浜田高等学校

イノベータータイプなグローバル人材育成を実施する学校 56校

愛媛県立松山東高等学校
愛媛県立西条高等学校
愛媛県立今治西高等学校
愛媛県立宇和島南中等教育学校
平成済美中等教育学校
愛媛県立八幡浜高等学校
高知県立高知国際高等学校
高知県立追手前高等学校
徳島県立徳島北高等学校
徳島県立城東高等学校
香川県立高松高等学校
香川県立丸亀高等学校

福岡県立香住丘高等学校
福岡県立福岡高等学校
福岡県立小倉高等学校
長崎県立諫早高等学校
長崎県立長崎西高等学校
佐賀県立佐賀西高等学校
大分県立大分舞鶴高等学校
大分県立大分上野丘高等学校
宮崎県立宮崎南高等学校
鹿児島県立鶴丸高等学校
鹿児島県立甲南高等学校
沖縄県立那覇国際高等学校
沖縄県立琉陽高等学校
沖縄県立首里高等学校

・今後も追加予定

広域的WWLコンソーシアムの構築



- 全国拠点機関と連携
- 西日本におけるALネットワークの成果を集約

実績報告(2023年度)

オンラインセミナー 申込人数		属性	中学校 生徒	中学校 教職員	高校 生徒	高校 教職員	大学 学生・院生	大学 教職員	その他	総計
日時	開催形式									
2023年4月24日-5月8日	オンデマンド	新しいキャリアを開拓する力	0	0	9	10	2	2	2	25
2023年6月9日	オンライン	ウクライナから戦争と平和を考える	0	1	85	21	117	8	9	241
	対面		0	0	0	2	24	2	0	28
2023年7月10日-7月23日	オンデマンド	ウクライナから戦争と平和を考える	0	0	9	16	0	1	0	26
2023年7月14日	オンライン	哲学するってどういうこと？	1	0	16	28	18	2	1	66
2023年7月21日	オンライン	「白人」「黒人」「黄色人種」のちがいは存在するのか	3	0	27	27	70	1	2	130
2023年7月24日-8月6日	オンデマンド	英語はなぜ難しいのかー第二言語習得と異文化コミュニケーションの視点から	0	0	51	43	8	1	2	105
2023年8月7日-8月20日	オンデマンド	Making an Effective Presentation in English	0	0	73	19	6	0	4	102
2023年9月8日	オンライン	『ガリヴァー旅行記』の英語を読む	0	0	30	13	0	1	0	44
2023年9月22日	オンライン	オオサンショウウオの交雑種問題を考える	0	0	19	7	2	1	1	30
2023年9月25日-10月8日	オンデマンド	哲学するってどういうこと？	0	0	26	9	2	1	2	40
2023年10月9日-10月22日	オンデマンド	「白人」「黒人」「黄色人種」のちがいは存在するのか	0	1	6	6	2	1	1	17
2023年10月27日	オンライン	通知表の国際比較：日本とドイツを中心に	1	0	36	18	29	5	3	92
2023年10月30日-11月12日	オンデマンド	『ガリヴァー旅行記』の英語を読む	0	0	18	10	0	0	1	29
2023年11月13日-11月26日	オンデマンド	オオサンショウウオの交雑種問題を考える	0	0	21	6	0	0	0	27
2023年12月22日	オンライン	新しい価値観と生活スタイルを創造するバリリゼーション：西アフリカ・サヘルの都市の清掃と緑化	0	2	19	17	34	4	5	81
2024年1月8日-1月21日	オンデマンド	通知表の国際比較ー日本とドイツを中心に	0	0	17	9	2	4	1	33
2024年1月22日-2月4日	オンデマンド	新しい価値観と生活スタイルを創造するバリリゼーション：西アフリカ・サヘルの都市の清掃と緑化	2	0	7	9	2	0	0	20
2024年2月9日	オンライン	アイヌ〜二風谷での育ち〜	1	0	11	14	6	9	12	53
2024年3月4日-3月17日	オンデマンド	アイヌ〜二風谷での育ち〜	0	0	212	6	3	2	0	223
2024年3月18日-3月31日	オンデマンド	オンラインフォーラム	0	0	16	8	1	2	0	27
総計			8	4	708	298	328	47	46	1439

フォーラムの参加者数は、89名でした。

実績報告(2024年度)

オンラインセミナー申し込み人数		属性	高校生	高校教 職員	大学生 ・院生	大学教 職員	その他	総計
日時	開催形式	セミナー名						
2024年7月26日	オンライン	国境なき医師団の活動を通じて、 本当の援助を考える	114	3				117
2024年8月1日～30日	オンデマンド	焼畑は環境を破壊するのか？-グローバルスケールでの森林破壊とローカルスケールでの人々の生活から環境問題を考える-	314	15	56	2		387
2024年8月1日～30日	オンデマンド	「白人」「黒人」「黄色人種」のちがいは存在するのか	216	22	57	2	2	299
2024年8月1日～30日	オンデマンド	Making an Effective Presentation in English	50	15	1	2		68
2024年8月5日	対面開催	国連大学訪問と討論会	12	1				13
2024年9月1日～30日	オンデマンド	アイヌ～二風谷での育ち～	318	7	1			326
2024年9月13日	オンライン	読解力がなぜ必要になるのか？AI時代の読解力	20	21		2		43
2024年9月20日	オンライン	〈哲学対話〉のすすめ——深く豊かな探求のために	27	13		1	1	42
2024年10月19日～11月29日	オンデマンド	読解力がなぜ必要になるのか？AI時代の読解力	432	32	2	2	1	469
2024年10月19日～11月29日	オンデマンド	〈哲学対話〉のすすめ——深く豊かな探求のために	120	15	1	4		140
2024年10月25日	オンライン	生物多様性はなぜ必要なのか	20	4	46	1		71
2024年11月15日	オンライン	<民族>再考—現代世界を読み解き直す窓として—	19	7	47	3		76
2024年11月22日	オンライン	カースト制度から考えるインド社会	26	9	23	2	1	61
2024年11月30日～2025年1月10日	オンデマンド	生物多様性はなぜ必要なのか	482	17	3	4	3	509
2024年12月14日～2025年1月14日	オンデマンド	<民族>再考—現代世界を読み解き直す窓として—	269	13	2	2	3	289
2024年12月14日～2025年1月14日	オンデマンド	カースト制度から考えるインド社会	172	15	2	3	3	195
2024年12月20日	オンライン	「人の心の中に平和のとりでを築く」ために	34	3		1	1	39
2025年1月24日	オンライン	私たちが望む世界を実現するために	27	5	1	1	4	38
2025年2月1日～2月28日	オンデマンド	国境なき医師団の活動を通じて、 本当の援助を考える	274	11	1	2		288
2025年2月1日～2月28日	オンデマンド	私たちが望む世界を実現するために	262	12	1	1		276
2025年2月1日～2月28日	オンデマンド	「人の心の中に平和のとりでを築く」ために	260	11	1	2	1	275
総計			3468	251	245	37	20	4021

- 2023年度
総参加者数 1439人
うち高校生 708人(約49%)

オンデマンド 634人
うち高校生 465人(約73%)

- 2024年度
総参加者数 4021人
うち高校生 3468人(約86%)

オンデマンド 3521人
うち高校生 3169人(約90%)

感想



文部科学省WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業

文部科学省

生物多様性はなぜ必要なのか？

持続可能な開発目標（SDGs）に「海の豊かさを守ろう」と「陸の豊かさも守ろう」があげられています。生物多様性を守ることはその中の重要な項目になります。生物多様性は、ある1つの生物種の中での遺伝子の多様性、多くの生物種が存在しているという意味での種間の多様性、さまざまな生物種が有機的に結びついて成り立っている生態系の多様性からなります。現代は、これらの多様性が急速に損なわれており、地球規模で対処すべき問題になっています。なぜ生物多様性は大切なのでしょう。



広島大学大学院
人間社会科学部 教授
浅野 敏久 先生

<プロフィール>

広島大学大学院人間社会科学部研究科教授。専門は人文地理学。環境市民運動と地域の関わりや、湿地や野生生物の保全につながる教育・観光利用に関心をもっています。著書に『宍道湖・中海と霞ヶ浦 環境運動の地理学』、編著に『エコミュージアムと大学博物館』、共編著に『自然の社会地理』など。

【対象】

WWLコンソーシアム拠点校・
連携校の高校生と教職員の皆様

隣のQRコード、またはWWLコンソーシアムのHPより
10月23日までにお申し込みください。



10/25

16:10 ~ 17:00

お問い合わせ

WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアム事務局

wwl2022ysh@hiroshima-u.ac.jp

〒739-8524 広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 広島大学教育学部内

「生物多様性はなぜ必要なのか」

- ・とても関心深い内容でした。生物多様性という大きなテーマをどのようにして身近な問題に落とし込むか、難しいですが将来のためには必要なのでこれから考えてみようと思います。
- ・自分では生態系維持の大切さを分かっているつもりでも人に説明しようとする途端に出来なくなったので、もう一度考えてみたい。
- ・本セミナーで扱われた生態系への影響の具体事例は、システム思考の育成のために大変分かりやすく、生徒も前のめりで視聴していました。貴重なご講義、ありがとうございました。

感想



文部科学省WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業

文部科学省

「民族」再考—現代世界を読み解き直す窓として—

「民族とは何か」という問いに、日本の研究者は未だに明確な答えを出せていない。それは、日本語としての「民族」が安易な定義を拒む厄介な概念であると同時に、この言葉自体が政治化してしまっているからである。一方、そうした学者たちの思案をよそに、民族にまつわる報道が連日世界のメディアをにぎわせてもいる。ウクライナ情勢、パレスチナ問題、カタルーニャ独立運動、アマゾンの先住民族居住区における乱開発などもすべて、民族的アイデンティティの多様な形成過程や異なる民族間の複雑な関係に端を発するものだとと言える。本講義では、このタイミングを捉え、現代世界を読み解き直す窓としての「民族」についてじっくりと考えてみたい。



東京都立大学大学院
人文科学研究科 教授
綾部 真雄 先生

東京都立大学人文社会学部教授。博士(社会人類学)。筑波大学第二学群比較文化学類(学部)、東京都立大学社会科学研究所(大学院)、タイ国チェンマイ大学社会学部特別研究員、成蹊大学准教授などを経て、現在、東京都立大学人文社会学部人間社会学科社会人類学分野教授。文化(社会)人類学、エスニック・セキュリティ研究、少数民族研究などを専門とし、30年以上にわたってタイの山地民における文化復興運動に深く関わっている。

【対象】

WWLコンソーシアム拠点校・
連携校の高校生と教職員の皆様

右のQRコード、または広島大学WWLコンソーシアムの
HPより11月13日までに申し込みください。



11/15

Fri.
16:10 ~ 17:00



お問い合わせ
広島大学WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム事務局
wwl2022ysh@hiroshima-u.ac.jp
〒739-8524 広島県広島市鏡山1丁目1番1号 広島大学教育学部内

「〈民族〉再考

—現代世界を読み解き直す窓として—」

- 民族に対する印象や捉え方が大きく変わる非常に興味深い講義の内容でした。
- 自身が今まで思っていた民族というイメージとは違う学問的な視点で分析をされており、聞いていてとても興味が湧いた。
- 興味深い内容のセミナーを行なっていただきありがとうございました。自分の中での民族と人種への理解・認識が大きく変わる機会となりました。
- 人類学の見方・考え方(指導要領的)を使うと、民族や人種をこのように見ることができると気づかされました。

感想



文部科学省WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業

カースト制度から考えるインド社会

中国を抜き世界一の人口となったインド。最近では「グローバル・サウスの盟主」などと呼ばれ、ニュースでもよく話題に上がるようになりました。巨大な人口を背景に経済規模も日本を追い越す勢いです。ですが、インドはまだまだ日本にとっては未知の国なのではないでしょうか？数学のできる頭の良いインド人、差別がひどい国、突然踊り出すインド映画など、そのイメージは極端で断片的です。今回は少しめんどくさい「カースト」のお話を通じて、現代インド社会を考えてみたいと思います。



京都大学大学院
アジア・アフリカ地域研究科 教授

池亀 彩 先生

池亀彩 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、教授。専門は社会人類学、南アジア研究。日本南アジア学会事務局長。主に南インド・カルナータカ州を中心に、王族カーストやグルと呼ばれる宗教リーダー、またダリトと呼ばれる旧不可触民によるローカルな政治運動などを研究しています。著書にPrincely India Re-imagined (2013, Routledge)、『インド残酷物語 世界一たくましい民』(2021年集英社新書)。編著にThe Guru in South Asia (2012, Routledge)など。

「カースト制度から考えるインド社会」

- カースト制度について自分自身で持っていたイメージと実際の形式について異なる点がいくつかあった。
- 今はもうほとんどカースト制度が存在しない、という話も聞くこともあり、実際インドのカーストがどのようになっているのか、全く知らずにいました。これからも自発的に調べてみたいと思います。
- インドのカースト制度について、今までは単語しか知らなかったが歴史的背景を知ることができた。
- 地理でインドのカースト制度について扱うので、とても参考になりました。特にICT産業の発展については、教科書にすら間違ったことが書かれていることがわかりました。

【対象】

WWLコンソーシアム拠点校・
連携校の高校生と教職員の皆様

右のQRコード、または広島大学WWLコンソーシアムの
HPより11月20日までに申し込みください。



11/22

16:10 ~ 17:00

Fri.

お問い合わせ

広島大学WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム事務局

wwl2022ysh@hiroshima-u.ac.jp

〒739-8524 広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 広島大学教育学部内

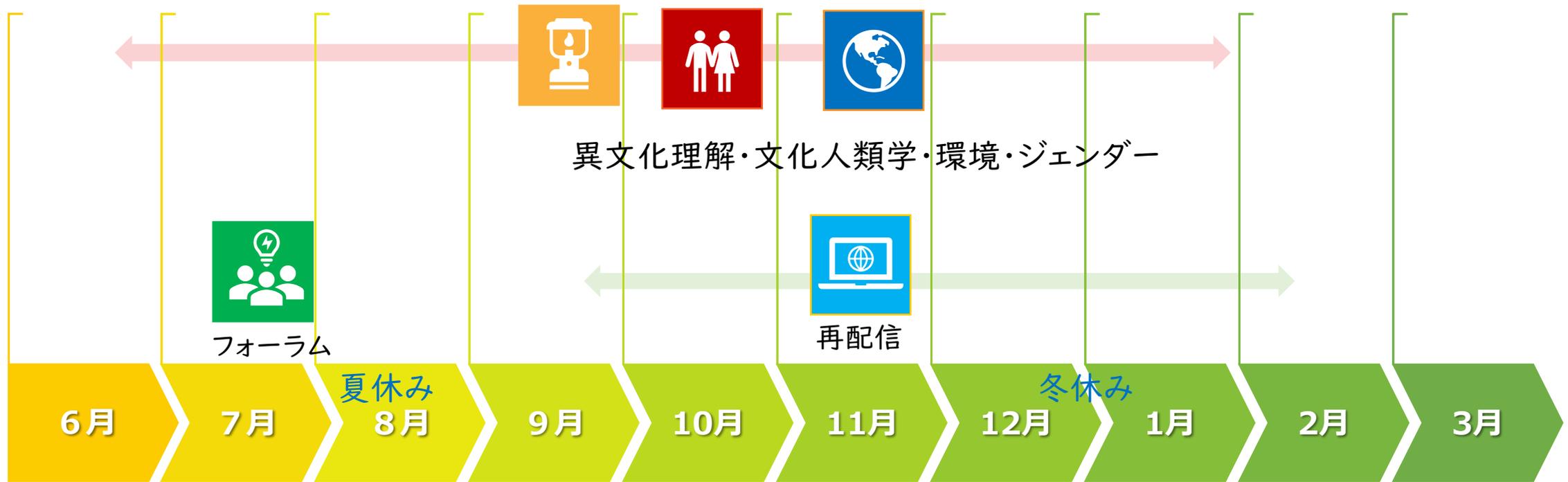
国連大学見学ツアー（2024年8月5日）



研究の道に進みたい、海外で働きたいと考えている全国の高校生を対象に実施し、国連大学の職員さんとの会話や施設の見学、グループディスカッションを行いました。

2025年度は国連UNITAR広島事務所を訪れる予定です。

2025年度 オンライン セミナー・フォーラム 実施計画



- ・オンラインセミナー（5回）、フォーラム（1回）を実施
- ・金曜日の16:10～17:00を予定
- ・セミナーは、40分の講義+10分の質疑応答で構成

オンラインフォーラム(7月25日実施予定)



文部科学省WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業

ONLINE FORUM

「取り残された人たち」を考える。
～国境なき医師団の現場から～

<国境なき医師団について>

国境なき医師団(Médecins Sans Frontières=MSF)は、民間で非営利の医療・人道援助団体です。紛争や自然災害、貧困などにより危機に直面する人びとに、独立・中立・公平な立場で緊急医療援助を届けています。1971年にフランスで設立し、1999年には活動の実績が認められノーベル平和賞を受賞しました。



© MSF

国境なき医師団(MSF)
総合診療医・救急医・疫学専門家
西野 恭平氏

<プロフィール>

東京都出身。2004年信州大学医学部卒業。2004年より国際医療研究センター(旧:国際医療センター)で小児科専攻として初期・後期研修を行う。その後、NGOに所属し、2007～2008年アフガニスタン、2009年ミャンマーで医療活動に従事。2010年から帝京大学医学部付属病院救急部所属。2014年、ロンドン大学衛生熱帯医大学院にて途上国公衆衛生学修士号を取得。2015年からWHO本部にてテクニカルオフィサーとしてアルボウイルスコントロールチームに所属。アウトブレイク対応や関連ガイドライン作成等を担当。2018年よりMSFに参加。2018年南スーダンでは医師として、バングラデシュ以降の派遣では疫学専門家として活動。2024年9月聖路加国際大学公衆衛生大学院博士課程取得。最優秀学生及び学長賞を受賞。非営利型一般社団法人Seeds代表。

<MSF活動歴>

2018年3～9月	南スーダン
2018年12月～2019年1月	バングラデシュ(ロヒンギャ難民キャンプ)
2019年8月～12月	ナイジェリア(国内避難民キャンプ)
2020年5月～6月	日本(新型コロナウイルス感染症 調査チーム)
2020年8月～11月	南スーダン(新型コロナウイルス感染症)
2024年1月～4月	スーダン(感染症アウトブレイク対応)

—PROGRAM—

- *グループディスカッション
 - *各グループによる発表
 - *コメント・講評
- ※広島大学の大学院生によるファシリテートのもと、ディスカッションを行います。

【対象】※定員 先着100名

WWLコンソーシアム拠点校・連携校の
高校生と教職員の皆様

右のQRコード、または広島大学WWLコンソーシアムのHPより7月22日までに申し込みください。



お問い合わせ

広島大学WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム事務局

wwl2022ysh@hiroshima-u.ac.jp

〒739-8524 広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 広島大学教育学部内

7/25 日

15:30 ~ 17:00

「『取り残された人たち』を考える。
～国境なき医師団の現場から～」

セミナー



グループディスカッション



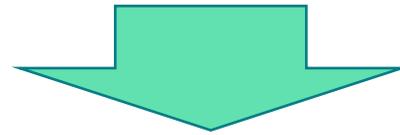
全体での発表



コメント、批評

オンラインフォーラム

話題提供



各グループに分かれて、討論

ブレイクアウトセッション

ファシリテーター

広島大学 教育学部
学生

グループ1

ファシリテーター

広島大学 総合科学部
国際共創学科 留学生

グループ2

ファシリテーター

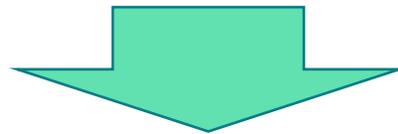
広島大学大学院
人間社会科学研究科 院生

グループ3

ファシリテーター

広島大学大学院
人間社会科学研究科 院生

グループ4



各グループの意見を発表・全員で共有



再配信

- 希望するオンラインセミナーが受講できなかった場合に備え、再配信を行います
- 再配信では、1回目のオンラインセミナーの録画を視聴して頂きます
- 質疑応答は、講師と直接やり取りができます
- 再配信のオンラインセミナーは、8月以降に行う予定です



感想・評価

- オンラインセミナー、オンラインフォーラム終了後に、アンケートを行います
- Google フォームを用いて、感想や評価を記入して頂きます
- オンラインセミナー、フォーラムの終了後に、QRコードをお示しして、入力画面に入って頂く予定です
- アンケートの結果は、広島大学WWL公式ウェブサイトに、掲載します



アドバンスト プレイスメントの検討材料に

Q&A



広島大学WWLコンソーシアム構築支援事業
文部科学省WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)
コンソーシアム構築支援事業



文部科学省

本事業について

セミナー・フォーラムのご案内

コンソーシアム加盟校

お問い合わせ

HOME / Q&A一覧

Q&A

Q. 高校地理の授業でも扱う、地理学の環境可能論と環境決定論、人口と資源消費の傾向におけるボーズラップなどの楽観的見方と新マルサスの見解などの悲観的見方も、生態系へのアプローチの考え方として使っても支障はないでしょうか。

WWLコンソーシアムオンラインセミナー 『生物多様性はなぜ必要なのか?』

Q. 好き嫌いという理由でストレスなどに注目して人の豊かさを求めるために駆除するという考え方は人間中心主義といえるのか気になりました。

WWLコンソーシアムオンラインセミナー 『生物多様性はなぜ必要なのか?』

Q. 人間中心主義でない考え方をすると、人間が作ってきた環境を容易に変えてしまう技術を手放し、例えば日本の江戸時代以前までの文化等の環境と共存している状況に近くする必要があるように思います。実際、人間中心主義でない考え方ではこのようになるのでしょうか。

WWLコンソーシアムオンラインセミナー 『生物多様性はなぜ必要なのか?』

セミナー・フォーラムのご案内

> 2025年度年間スケジュール

> 2025年度のセミナーの予定

> Q&A

> 過去のセミナー

> オンラインセミナーのご案内

> オンラインフォーラムのご案内

Question

WWLコンソーシアムオンラインセミナー 『生物多様性はなぜ必要なのか？』

人間中心主義でない考え方をすると、人間が作ってきた環境を容易に変えてしまう技術を手放し、例えば日本の江戸時代以前までの文化等の環境と共存している状況に近くする必要があるように思います。実際、人間中心主義でない考え方ではこのようになるのでしょうか。

Answer

そんな極端なことを主張する人はほとんどいないと思います（まったくいないとは断言できません）。生態系中心主義の立場であれば、なんらかの行為をする際に「人間にとっての利益が最優先される」とするのではなく、「生態系のバランスを崩さないよう行動することをまず考えるべきだ」ということかと思います。

オンラインセミナー・フォーラムのお申し込み方法

1

広島大学 WWLコンソーシアム構築支援事業 ホームページ
<https://wwl2022ysh.hiroshima-u.ac.jp/>

The screenshot shows the homepage of the Hiroshima University WWL Consortium Construction Support Project. The header includes the project name, logos for the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology and Hiroshima University, and navigation links for 'About this project', 'Seminar/Forum information', and 'Consortium member schools'. A contact button is also present. The main content area features two buttons: 'Online Seminar information' and 'Online Forum information'. The background image shows a globe with a graduation cap on top, symbolizing global education.

広島大学WWLコンソーシアム構築支援事業
文部科学省WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)
広島大学 コンソーシアム構築支援事業

文部科学省

本事業について セミナー・フォーラムのご案内 コンソーシアム加盟校

お問い合わせ

> オンラインセミナーのご案内

> オンラインフォーラムのご案内

WWL WORLD WIDE LEARNING
FOR HIGH SCHOOL STUDENT
広島大学WWLコンソーシアム構築支援事業

オンラインセミナー・フォーラムのお申し込み方法



広島大学WWLコンソーシアム構築支援事業
文部科学省WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)
コンソーシアム構築支援事業



本事業について セミナー・フォーラムのご案内 コンソーシアム加盟校

お問い合わせ

2

オンラインセミナーのご案内

オンラインフォーラムのご案内

オンラインセミナー・フォーラムのご案内をクリック

3

お申し込みフォーム

セミナー詳細・講師紹介

2025年9月19日(金) 16:10~17:00

天然知能で世界を突き抜ける

郡司 幸夫先生 (早稲田大学基幹理工学部表現工学専攻 准教授)

> 申し込む > 詳細をみる

2025年10月3日(金) 16:10~17:00

イスラームってなあに？世界史の知識と現代をつなぐ

後藤絵美 (東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 准教授)

> 申し込む > 詳細をみる

4

実施日の3日前までに、google
フォームに、学校名、学年、人数な
どを入力

9月19日(金)

早稲田大学基幹理工学部表現工学科教授 郡司幸夫先生



「天然知能で世界を突き抜ける」

我々は無意識のうちに、人間の思考を計算であると規定してしまう。思考とは何かを形式化した数学者が、計算機を発明したのだから、それは仕方のないことでもある。知覚される状況を「問題」と捉え、それを「解決」することで計算が完了する。それはもはやAIが代わってやってくれる。

人間のすべきことは、与えられた問題を解こうとしながらも、問題が問題とならない次元を見つけ、既存の世界を突き抜けていくことだ。しかしその方法は何かあるのか。科学は、基本的に試行錯誤以外にないと答える。

しかし芸術家は無意識のうちに試行錯誤よりも確率の高い方法で「作品化」の賭けに出る。その方法=天然知能を具体例と共に示そう。

10月3日(金)

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授

後藤絵美先生



「イスラームってなあに？」

世界史の知識と現代をつなぐ」

中学校や高校の授業ではイスラーム教にまつわる過去が主に扱われ、現在のことを知る機会は多くありません。一方、イスラーム教徒(ムスリム)は、近年、世界人口の4分の1を占めると言われるほど存在感を高めています。

みなさんも一緒に勉強をしたり、仕事をしたり、ご近所になったり、友達づき合いをしたりすることがきっとあるでしょう。

本講義では、イスラーム教についての基本的な事柄を知るとともに、それを信仰する人々が何を大切にしているのか、その暮らしや考え方がどれほどの多様性をもっているのかを、具体的に見ていきます。

10月17日(金)

東京大学大学院情報学環教授 田中東子先生



「メディア文化とジェンダー」

みなさんは、普段どのようなメディアを使っているでしょうか？情報の収集やコミュニケーションを、どのようなメディアを利用して行っているでしょうか？

現代社会の中で、みなさんのコミュニケーションは様々なメディアや情報機器を通じてやり取りされています。また、メディアや情報機器を通じてやり取りされるデータや情報、コミュニケーションは「メディア文化」を形成し、みなさんのものの見方や考え方に多くの影響を与えています。

この講演では、特に「ジェンダー」という観点から、みなさんが日々接しているメディア文化が性別に基づくどのような特徴を持っているのか、どのような問題や課題を抱え込んでいるのか、という点について、明らかにしていきたいと考えています。

11月14日(金)

広島大学大学院総合生命科学研究科教授 西堀正英先生



「ツキノワグマやニホンジカなどの野生動物はどこからやってきてどこで暮らしているのか?~DNAから野生動物の生態や生物多様性を観る~」

ツキノワグマの目撃情報がニュースで報道され、里山のみならず街中の畑までニホンジカがやって来るようになり、人身事故や農作物被害が急増し、人と動物の在り方をよく考える必要がでてきました。そのためにはその対象、つまりツキノワグマやニホンジカのことを「よく知る」必要があります。

それら動物自体のことは動物園や自然史博物館に行けば学べますが、それら動物の「生きざま」は動物が棲むフィールドに出向いて、さらには会って観察する必要があります。しかしながらそれには時間とコストがかかるのみならず危険も伴います。

そこでそれら野生動物の生息や生態、あるいは多様性などを生物が持つDNA情報から観察し、それを基にともに考えてみましょう。

オンラインセミナー スケジュール

日程	講師	セミナータイトル
9月19日(金)	早稲田大学基幹理工学部教授 郡司幸夫先生	天然知能で世界を突き抜ける
10月3日(金)	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授 後藤絵美先生	イスラームってなあに?世界史の知識と現代をつなぐ
10月17日(金)	東京大学大学院情報学環教授 田中東子先生	メディア文化とジェンダー
11月14日(金)	広島大学大学院総合生命科学研究科教授 西堀正英先生	ツキノワグマやニホンジカなどの野生動物はどこからやってきてどこで暮らしているのか? ~DNAから野生動物の生態や生物多様性を観る~
日程検討中 (12月~1月を予定)	慶応義塾大学環境情報学部教授 今井むつみ 先生	調整中

オンラインフォーラム スケジュール

日程	講師	セミナータイトル
7月25日(金)	国境なき医師団 西野恭平 先生	「取り残された人たち」を考える。 ~国境なき医師団の現場から~

今後の課題

学校との日程調整

参加者の確保

講師との日程調整

HPの維持調整



教育委員会、拠点校、連携校の先生方へ

お願いとお伺い

- オンライン セミナー・フォーラムのご案内
- 再配信のご希望の時間帯
- 受講される学年・人数（予定）
- オンラインセミナーにおける質疑応答、
フォーラムにおけるブレイクアウト・セッションの実施方法



WWL WORLD WIDE LEARNING
FOR HIGH SCHOOL STUDENT

広島大学 WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業 事務局
公式サイト <https://wwl2022ysh.hiroshima-u.ac.jp/>
お問い合わせ wwl2022ysh@hiroshima-u.ac.jp

令和7年度WWL・SGHN連絡協議会 アンケートご協力をお願い

本日は、令和7年度WWL・SGHN連絡協議会にご参加いただき、誠にありがとうございました。

今後の事業運営の参考とさせていただくため、以下のQRコードよりアンケートへのご回答をお願い申し上げます。

ご多用のところ恐縮ですが、令和7年8月15日(金)までにご回答くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

※お手持ちのスマートフォンやタブレットでQRコードを読み取り、アクセスしてください。



<https://www.bbt757.com/svlEnquete/jsp/user/top?id=wwl-sgh2>